

講義内容の概要

(シラバス)

2016 (H28) 年度

高知短期大学

科目名	法学	単位数	2	期別	集中
科目コード	A0010	担当教員	小林 直三	所属	名古屋市立大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	法学の総論的な部分を、特に公法（憲法、行政法、刑法、国際法）の視座から学んでいきます。これから法学を学んでいきたい方はもちろんのこと、経済・経営学などを中心に学びたい方も、法学のエッセンスを身につけるために、ぜひ、受講してください
授業の進め方	講義形式で行います。
達成目標	(1)法学及び公法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)法的思考ができるようになる。 (3)実際の問題を法的に分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 インTRODクシヨン（法とは何か？） 第2回 議院内閣制と国民内閣制論 第3回 法の支配と法治主義 第4回 行政裁量 第5回 行政組織法の基礎 第6回 行政国家化と行政立法・行政計画 第7回 行政行為の種類 第8回 行政上の強制執行と即時執行 第9回 犯罪と刑罰 第10回 行政罰 第11回 適正手続と情報法 第12回 国家賠償制度概論 第13回 損失補償制度概論 第14回 行政争訟法 第15回 全体のまとめ
履修上の注意	私語は厳禁です。
教科書	特に指定しません。
参考書	『地域に関する法的研究』小林直三・根岸忠・薄井信行編、新日本法規出版（2015年） 『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社（2014年） 『憲法実感！ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社（2014年）
成績評価方法	『中絶後の憲法哲学的研究』アメリカ憲法判例を踏まえて、小林直三著、法律文化社（2013年） 期末試験（法律哲学の研究）を評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中にテストをすることもあ りかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評 価する。授業態度なども同様とする。

科目名	経済学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	A0030	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7189 (研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	需要と供給という経済学の基本理論をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	教科書を読みながら進める。その中で理解を深めるため、質疑応答を行う。また、章末問題演習も行う。
達成目標	(1) 市場における需要と供給の作用により、価格や取引量がどのように変化するのか理解できるようになる。 (2) 政府が市場に介入しない方がいいとはどういうことか、理解できるようになる。 (3) 政府が市場に介入した方がいい場合とはどういう場合かを知ることができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに (教科書1~3章) 第2回 市場1:需要と供給と均衡価格と取引量 (教科書第4章) 第3回 市場2:演習1 (同上) 第4回 市場3:演習2 (同上) 第5回 弾力性1:豊作貧乏と生産調整 (教科書第5章) 第6回 弾力性2:演習 (同上) 第7回 市場介入1:販売量規制と価格規制 (教科書第6章) 第8回 市場介入2:演習1 (同上) 第9回 市場介入3:演習2 (同上) 第10回 市場の効率性1:需要と供給と余剰 (教科書第7章) 第11回 市場の効率性2:演習 (同上) 第12回 市場介入4:販売量規制と価格規制再考 (教科書第8章) 第13回 市場介入5:演習 (同上) 第14回 市場介入6:国際貿易 (教科書第9章) 第15回 おわりに
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まるが、どちらか一方だけでも受講に支障はない。
教科書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年)の主として第4~9章
参考書	
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(50%)、受講態度(50%)を加味して評価する。ただし、学生の演習の取り組み具合等によって、評価方法を変えることがある。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	専任教員	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	本演習未履修学生に対し、専任教員が担当し、教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもと、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	担当教員が授業中に明示する。

科目名	英語（初級）A	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0080	担当教員	福江 満子	所属	高知県立大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業は社会に出てからもう一度英語をやり直そうとしている人などを対象にした、基礎的なところから英語を学ぶ授業です。使用テキストは誰でも知っている内外の人物を教材にして、事実を英語に結びつけることによって英語を学べるように工夫しています。平易な英語を繰り返し学んで身に付けることによって英語学習の基盤を作ります。各ユニットは、英語の4技能(聞く・読む・話す・書く)を基本から身に付けていくことができるように工夫しています。				
授業の進め方	1.英文の聞き取り 2.聞き取った内容についての質問 3.英文に出てくる単語のテストと説明 4.聞き取った内容を分解して組み立てる。 5.これまで学んだことを生かした短い英文の作成 6.文法の説明と用例 7.発音についての説明と練習 8.付属CDを使ったシャドイングと暗唱				
達成目標	(1)簡単な英文を読んですんなり理解出来るようになる。 (2)平易な英文を聞いて理解できるようになる。 (3)やさしい英語を使って簡単な英文を書くことが出来るようになる。 (4)これまで学習したやさしい英語を使って実践的な対話をする事が出来るようになる。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 英語で挨拶・自己紹介 第2回 岡本 太郎 第3回 湯川 秀樹 第4回 本田 宗一郎 第5回 手塚 治虫 第6回 美空 ひばり 第7回 第2回から第6回までの復習 第8回 ダイアナ妃 第9回 双葉山 第10回 野口 英世 第11回 黒澤 明 第12回 ジョン・レノン 第13回 第8回から第12回までの復習 第14回 プレゼンテーション 第15回 前半の総復習	第16回 三浦 敬三 第17回 宮澤 賢治 第18回 市川 房枝 第19回 樋口 一葉 第20回 第16回から19回の復習 第21回 マザーテレサ 第22回 中内 功 第23回 開高 健 第24回 アルフレッド・ノーベル 第25回 第21回から24回の復習 第26回 プレゼンテーション 第27回 マーガレット・サッチャー 第28回 吉田 茂 第29回 後半のまとめ 第30回 総復習			
履修上の注意	英語は楽しく学ぶことが大事です。なによりクラスへの積極的参加を重視します。初級のクラスですので、どなたでも出席可能です。				
教科書	茅ヶ崎方式 英語教本BOOK0 『0からスタート再学習の英語』 前編 著者：久保田・越村・小室・鈴木・脇田 発行所：有限会社 茅ヶ崎出版				
参考書	著者：株式会社 星雲社 2008年 発行の時に使用していた英文法の本				
成績評価方法	授業に取り組む姿勢と授業中の発表(30%)、試験(70%)から総合的に評価します。				

科目名	英語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0100	担当教員	奥村 訓代	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>苦手意識の英語を、基本表現を覚えることで克服する。 英語で異文化を楽しむ。 英語を使用しなければならない環境設定の「海外留学」等をテーマとする。</p>																														
授業の進め方	<p>基本は講義によって進める。 毎回復習・確認テストを予定している。 講義の流れは、予復習し易いようにテキストに添っておこなう。</p>																														
達成目標	<p>(1) 必要な表現を覚える (2) 4技能を使う (3) 英語の必要性を感じる</p>																														
授業計画 (講義の具体的 内容)	<table border="0"> <tr> <td>1) なぜ英語を学ぶのか</td> <td>16・17) 「イギリスのカフェで」、「道路閉鎖」</td> </tr> <tr> <td>2) 英語学習の目標設定の在り方</td> <td>18・19) 「ジョーンズ家滞在初日」、「旅程表」</td> </tr> <tr> <td>3) 英語学習モチベーションを上げ方</td> <td>20・21) 「コピー機の故障」、「野菜オーケストラ」</td> </tr> <tr> <td>4) 海外短期語学プログラムの選び方</td> <td>22・23) 「語学学校へ電話」、「レストラン」</td> </tr> <tr> <td>5) 海外留学のメリットとデメリット</td> <td>24・25) 「観光案内所で」、「定期購読」</td> </tr> <tr> <td>6) 留学前にすること</td> <td>26・27) 「妻のパート探し」、「セール広告」</td> </tr> <tr> <td>7) 海外での住生活</td> <td>28・29) 「新刊料理本」、「書評」</td> </tr> <tr> <td>8) 履修クラスの選び方</td> <td>30) 「まとめと復習」</td> </tr> <tr> <td>9) 留学先の授業についていく方法</td> <td>31) 「試験」</td> </tr> <tr> <td>10) 外国人との対応法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11) 友人の作り方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12) ホームシックの回復法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13) 留学経験を語る</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14) 帰国後の英語力維持法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15) 海外の大学院を考える</td> <td></td> </tr> </table>	1) なぜ英語を学ぶのか	16・17) 「イギリスのカフェで」、「道路閉鎖」	2) 英語学習の目標設定の在り方	18・19) 「ジョーンズ家滞在初日」、「旅程表」	3) 英語学習モチベーションを上げ方	20・21) 「コピー機の故障」、「野菜オーケストラ」	4) 海外短期語学プログラムの選び方	22・23) 「語学学校へ電話」、「レストラン」	5) 海外留学のメリットとデメリット	24・25) 「観光案内所で」、「定期購読」	6) 留学前にすること	26・27) 「妻のパート探し」、「セール広告」	7) 海外での住生活	28・29) 「新刊料理本」、「書評」	8) 履修クラスの選び方	30) 「まとめと復習」	9) 留学先の授業についていく方法	31) 「試験」	10) 外国人との対応法		11) 友人の作り方		12) ホームシックの回復法		13) 留学経験を語る		14) 帰国後の英語力維持法		15) 海外の大学院を考える	
1) なぜ英語を学ぶのか	16・17) 「イギリスのカフェで」、「道路閉鎖」																														
2) 英語学習の目標設定の在り方	18・19) 「ジョーンズ家滞在初日」、「旅程表」																														
3) 英語学習モチベーションを上げ方	20・21) 「コピー機の故障」、「野菜オーケストラ」																														
4) 海外短期語学プログラムの選び方	22・23) 「語学学校へ電話」、「レストラン」																														
5) 海外留学のメリットとデメリット	24・25) 「観光案内所で」、「定期購読」																														
6) 留学前にすること	26・27) 「妻のパート探し」、「セール広告」																														
7) 海外での住生活	28・29) 「新刊料理本」、「書評」																														
8) 履修クラスの選び方	30) 「まとめと復習」																														
9) 留学先の授業についていく方法	31) 「試験」																														
10) 外国人との対応法																															
11) 友人の作り方																															
12) ホームシックの回復法																															
13) 留学経験を語る																															
14) 帰国後の英語力維持法																															
15) 海外の大学院を考える																															
履修上の注意	<p>前期・後期でテキストが変わります。</p>																														
教科書	<p>前期：『海外留学へのパスポート』 小林俊彦（朝日出版 2016） 後期：『スパイラル英語トレーニング』 入江泉（ジャパンタイムズ 2010）</p>																														
参考書	<p>講義のなかで紹介します。</p>																														
成績評価方法	<p>期末試験（40％）、平常点（30％）、授業貢献度（30％）の比率で、総合的に評価します。平常点のなかには、実施予定の確認テストの評価も含まれます。</p>																														

科目名	英語（会話中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0120	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中級程度の英会話の修得をめざします。 英語（会話初級）より、少し高い内容を勉強します。	
授業の進め方	テキストを中心にヒアリング上達のためにテープ等も使います。 ペアやグループになった会話の練習や、ゲーム等も取り入れます。 テキストにそって進めていき、その中で、より実践的な英会話状況に応じて使えるよう、指導していきます。 ユニットごとに基本となる文がのっていますので、これを使って会話の練習をしたり、テープの後について言ったり、また聞き取りテスト等もします。2人やグループでの会話を取り入れ、イントネーション・ストレス・発音の指導にも力を入れていきたいと思ひます。 イラストの入った楽しいテキストは日常生活の身近な話題ばかりで会話を学ぶ楽しさを実感してもらえます。英語が自然に好きになるような授業をめざしたいと思ひています。	
達成目標	(1) 英文法を理解する。 (2) 英語で活発な会話ができるようになる。 (3) 英語を正確に聞き取れるようになる。	
授業計画 (講義の具体的な内容)	Lesson 1 Birthdays and Gifts, Telling About Friendships(1) Lesson 2 Birthdays and Gifts, Telling About Friendships(2) Lesson 3 Buying Food, Being a Guest at Mealtime, Describing Food Preferences(1) Lesson 4 Buying Food, Being a Guest at Mealtime, Describing Food Preferences(2) Lesson 5 Eating in a Restaurant, Recipes(1) Lesson 6 Eating in a Restaurant, Recipes(2) Lesson 7 Telling About the Future(1) Lesson 8 Telling About the Future(2) Lesson 9 Making Comparisons, Expressing Opinions(1) Lesson 10 Making Comparisons, Expressing Opinions(2) Lesson 11 Shopping in a Department Store(1) Lesson 12 Shopping in a Department Store(2) Lesson 13 Review(1) Lesson 14 Review(2) Lesson 15 Mid-term test	Lesson 16 Getting Around Town Lesson 17 Public Transportation Lesson 18 Describing People's Actions(1) Lesson 19 Describing People's Actions(2) Lesson 20 Describing Ongoing Past Activities(1) Lesson 21 Describing Ongoing Past Activities(2) Lesson 22 Giving an Excuse(1) Lesson 23 Giving an Excuse(2) Lesson 24 Medical Examinations, Medical Advice, Health, Nutrition(1) Lesson 25 Medical Examinations, Medical Advice, Health, Nutrition(2) Lesson 26 Expressing Time and Duration Lesson 27 Making Plans by Telephone Lesson 28 Offering Help, Indicating Ownership, Household Problems, Friends(1) Lesson 29 Offering Help, Indicating Ownership, Household Problems, Friends(2) Lesson 30 Final test
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話初級）から、少し進んだ内容で進めていきますので、簡単な英語なら話せる方や、さらに自分の会話力を伸ばしたい方に適しています。	
教科書	SIDE by SIDE Third Edition Book2, Steven J. Molinsky, Bill Bliss 著、PEARSON Longman	
参考書		
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。	

科目名	保健体育	単位数	2	期別	後期
科目コード	C0190	担当教員	本間 聖康	所属	
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	生活と健康（特に運動と健康） ライフスタイルの変化により、日常生活における身体活動は大幅に軽減された。 ここでは、主に運動（身体活動）と健康の関係についてみていく。
授業の進め方	講義形式
達成目標	(1) 運動（身体活動）と健康の関係について理解し、生活に生かすことができる。 (2) 健康管理のために、メディカルチェックが重要であることが理解できる。 (3) 健康の保持・増進のために運動（身体活動）を実施する際の注意点が理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 人間と運動 第2回 運動不足の実態 第3回 ベッド・レスト・スタディ 第4回 運動と心臓疾患の予防 第5回 運動と心臓 第6回 運動と血圧 第7回 肥満と血中脂質に及ぼす影響 第8回 体力に及ぼす効果 第9回 喫煙と運動 第10回 運動と寿命 第11回 自覚的効果 第12回 運動の功罪 第13回 運動処方とは 第14回 運動処方の手順 第15回 運動処方の内容
履修上の注意	特になし
教科書	なし
参考書	『新版 運動処方』池上晴夫著、朝倉書店 『スポーツ医学』池上晴夫著、朝倉書店
成績評価方法	期末試験（100%）

科目名	文学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0230	担当教員	芋生 裕信	所属	高知県立大学文化学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>テーマ：「市井に生きる人々」を描いた小説 概要：おもに昭和戦後の小説の中から普通の市民生活を営む人々の姿を描いた作品を選び、精読します。</p>
授業の進め方	<p>取り上げる作品は前週にはプリントして配布しますので、授業日までに読んできてください。受講生の感想を交えて読解を進めていきます。</p>
達成目標	<p>(1) 日本語による小説作品を味わい鑑賞することができること。 (2) 個々の小説の、文体・構成・思想上の特徴が理解できること。 (3) 自分の考えが口頭で、また文章で発表できるようになること。</p>
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 授業計画の説明 第2回 井伏鱒二「鐘供養の日」(1) 第3回 井伏鱒二「鐘供養の日」(2) 第4回 井伏鱒二「御神火」 第5回 井伏鱒二「黒い雨」 第6回 尾崎一雄「トマト畑で」 第7回 尾崎一雄「虫のいろいろ」 第8回 木山捷平「大陸の細道」(1) 第9回 木山捷平「大陸の細道」(2) 第10回 庄野潤三「夕べの雲」(1) 第11回 庄野潤三「夕べの雲」(2) 第12回 庄野潤三「自分の羽根」 第13回 伊藤桂一「私の戦旅歌」(1) 第14回 伊藤桂一「私の戦旅歌」(2) 第15回 まとめ (一部変更があるかもしれません)</p>
履修上の注意	<p>小レポートを数回課しますので、熱心に取り組んでください。</p>
教科書	<p>プリント配布</p>
参考書	<p>授業の中で紹介します。</p>
成績評価方法	<p>平常点(小レポートを含む。40%)と期末レポート(60%)を総合して評価します。</p>

科目名	自然科学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0260	担当教員	一色 健司	所属	高知県立大学地域教育研究センター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	様々なものの量・状態や現象を計測して量的に表現するために、自然科学の成果が幅広く利用されています。本授業では「計測標準と単位を通して見た自然科学」をテーマとして、日常生活の中で使われているいろいろな量や単位を題材として、これらの背景にある自然現象と自然法則を解説します。
授業の進め方	講義形式で進めますが、授業中に演習問題を解いていただくこともあります。質疑応答は授業中に行うほか、レスポンスシート兼出席確認票やレポートに併記された質問、電子メールで出された質問に対しては、授業中またはウェブページへの掲載によって回答します。
達成目標	(1) 基礎的なことから順を追って論理的に考えることができるようになる。 (2) 様々な量や単位の決め方や測り方を通じて、基本的な自然現象と自然法則を理解する。 (3) 自然を理解するときに量的表現を用いることの重要性を実感する。 (4) 科学的なものの見方・考え方のできる教養あるより良き市民としての素養を培う。
授業計画 (講義の具体的な内容)	日常生活で出会う現象や日常生活で使う量を取り上げながら、以下の話題を解説します。難易度はなるべく受講生に合わせるつもりです。また、受講生からの質問や疑問等への回答や、内容に関連する最新の研究成果や時事的な話題も取り入れます。 第1回 単位とは、SI単位、単位に関する法令 第2回 時間の計測と暦－惑星の運動と暦、太陽暦とグレゴリオ暦 第3回 時間と時刻－協定世界時と原子時計 第4回 長さや位置－光速不変の原理と特殊相対論 第5回 質量と重さ－力と運動法則、等価原理と一般相対論 第6回 物質の構造と原子分子－単位モルとアボガドロ定数、原子の存在証明 第7回 原子の種類と周期表－原子の成り立ち 第8回 原子量と原子数の計測－質量標準としての原器、新しい質量標準 第9回 摂氏温度と絶対温度－理想気体、水の状態変化 第10回 黒体放射－太陽表面温度と地表温度、温室効果 第11回 光と視覚－光度と比視感度曲線 第12回 熱と仕事－エネルギー、質量とエネルギーの等価性、特殊相対論(再) 第13回 電気に関わる現象と電気エネルギー 第14回 放射線と放射能 第15回 SI単位の将来
履修上の注意	授業で映写したスライド、自習用資料、質問に対する回答のうち授業で触れなかった事項をウェブページで提供しますので、可能であればウェブページを閲覧できる環境を用意してください。自宅でもかまいませんし、大学の情報演習室も使用できます。
教科書	使用しません。映写資料を用いて解説します。 授業の中で計算問題を解いていただくことがありますので、可能であれば電卓を持参してください。携帯電話の電卓機能を使用したのでもかまいません。
参考書	『理科年表』国立天文台編、丸善（毎年発行されています。最新のもの(2015年版)がよいですが、それ以前のものでもかまいません。授業で取り上げた様々な量に関するデータが記載されていますので、自習用教材として使用すると良いでしょう）。大学の情報演習室の端末を使うと、オンライン版理科年表も利用することができます
成績評価方法	授業時に出席する小レポート(不定期に数回程度出題)(40%)、期末試験(レポート試験)(60%)を得点化し、その合計点で評価します。

科目名	心理学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0270	担当教員	矢野 宏光	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>心理学の多くの分野の中から、受講生の興味や関心が高いと思われる分野を中心に取り上げ、心理学の基礎的な講義を行います。この講義を通して、心を科学的にとらえる力を身につけるとともに、人間理解や自己理解を深めて欲しいものです。</p> <p>さらに、担当者の専門とする健康心理学・運動心理学・スポーツ心理学などの領域の講義内容は、他ではあまり受講する機会がありません。けれど、「心と身体つながり」を考える上では、実生活にも密着した内容が展開されますので、興味関心がある方はどうぞ受講して下さい。</p>
授業の進め方	<p>・講義形式を主とするが、質問や意見を求める機会も設ける。簡単な心理実験や心理検査なども実施する予定。</p>
達成目標	<p>(1)心理学に対する興味や関心を高める。(関心・意欲・態度)</p> <p>(2)重要な概念や用語の意味を理解できる。(知識・理解)</p> <p>(3)日常的な文脈の中で、学習した事柄を活かすことができる(活用力)</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>全ての学問には基礎的分野と応用的分野があり、心理学も然りである。とりわけ心理学は、日常生活における人間理解や自己理解を深めていくうえでの実用性が高い学問である。本講義では、これまでの心理学研究から見出されてきた様々な理論的見解(心のしくみや働き)を深く学ぶことによって、実生活の中で心理学的枠組みを通して自己を客観的にみつめ、他者の心を理解し、よりよい生き方をしていくための基礎的能力を養う。</p> <p>第1回 オリエンテーション(心を科学するとは)</p> <p>第2回 見る・聞く・感じるころ(知覚)</p> <p>第3回 学ぶ・覚えるころ(学習・記憶)</p> <p>第4回 やる気の心理(動機づけ・欲求)</p> <p>第5回 喜怒哀楽のころ(感情・フラストレーション・ストレス)</p> <p>第6回 その人らしさの心理(人間性とパーソナリティ)</p> <p>第7回 かしこさの心理(知能)</p> <p>第8回 考えるころ(思考・問題解決・創造性)</p> <p>第9回 発達するころ(乳幼児期・児童期・青年期の発達)</p> <p>第10回 発達するころ(成人期・高齢期の発達)</p> <p>第11回 人と関わる心理(対人認知・帰属理論)</p> <p>第12回 人と集うころ(集団の心理・リーダーシップ・社会的影響)</p> <p>第13回 健康なころ(メンタルヘルス・心理臨床の対象・心理療法)</p> <p>第14回 運動ところ(身体運動の意義と効果・TTM)</p> <p>第15回 競技スポーツとところの関係(メンタルトレーニング)</p>
履修上の注意	<p>授業中に数回小レポートを課します。</p>
教科書	<p>使いません。資料を配布します。</p>
参考書	<p>その都度、紹介します。</p>
成績評価方法	<p>小レポート(30%)、期末試験(50%)、授業への参加姿勢(20%)から総合的に評価します。</p>

科目名	憲法	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0280	担当教員	小林 直三	所属	名古屋市立大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する統治システムに関して解説する。ただし、たんに規定を逐条解釈するのではなく、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えて、解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 立憲主義の文化的背景および歴史的発展並びに基本理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する統治システムに関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提としたうえで、立憲主義や日本国憲法に関する現代の様々な問題に関して、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 イン트로ダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 憲法とは何か? 第3回 立憲主義の文化的背景とその歴史的発展 第4回 立憲主義の正統性の検討(民主主義との緊張関係について) 第5回 わが国の憲法史 第6回 日本国憲法の平和主義の検討 第7回 国民主権原理について 第8回 国会の組織 第9回 国会と議院の権能 第10回 内閣の組織・権能と議院内閣制 第11回 裁判所の組織と権能 第12回 財政民主主義と地方自治 第13回 憲法保障概説 第14回 憲法改正とその手続 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社(2014年)
参考書	『地域に関する法的研究』小林直三、根岸忠、薄井信行編、新日本法規出版(2015年) 『憲法実感!ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社(2014年) 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三著、法律文化社(2013年)
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあらかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。授業態度なども同様とする。

科目名	憲法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0290	担当教員	岡田 健一郎	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、憲法が保障する人権についてお話しします。
授業の進め方	通常の講義形式で行います。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人として必要な憲法の基礎知識を習得する。 ・ 憲法が政治・経済・社会とどのように関わっているのかを理解する。 ・ 憲法という尺度から社会問題を考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 法学入門(1) 第2回 法学入門(2) + 憲法総論(憲法の歴史など)(1) 第3回 憲法総論(国民主権など)(2) 第4回 刑事手続と人身の自由(1) 犯罪発生から刑務所まで 第5回 刑事手続と人身の自由(2) なぜ冤罪が起こるのか 第6回 労働基本権(1) 労働条件 第7回 労働基本権(2) 労働三権 第8回 生存権 第9回 経済的自由 第10回 精神的自由(1) 内心の自由 第11回 精神的自由(2) 表現の自由 第12回 参政権と選挙 第13回 平等 第14回 人権総論(1) 新しい人権 第15回 人権総論(2) 外国人の人権、私人間効力
履修上の注意	復習は大切です。授業でわからないことはそのままにせず、早めに自分で調べたり、質問したりするようにして下さい。質問・相談は大歓迎です。
教科書	教科書は指定しません。
参考書	授業の中で紹介していきます。
成績評価方法	基本的に、期末レポート(あるいは期末試験)で評価します。ただし、授業中に課題を出し、評価に加える場合があります。

科目名	行政法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0302	担当教員	赤間 聡	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	行政法 では行政と市民との間の紛争を解決するための法律を勉強します。この勉強の前提として、「紛争を解決」とは何かを知る必要がありますが、これは民事訴訟の勉強を必要とします。すなわち、高知県と県民との紛争はまずは民事訴訟がお手本となるということです。この学習後、初めて、行政訴訟について勉強します。ここでは税金をめぐるトラブルや建築確認をめぐるトラブル等について勉強します。
授業の進め方	教科書を使わず、プリントを中心にいきます
達成目標	法律学習は自分の主張を正当化する技術の取得です。裁判に勝てるようになること、行政に不服をいえるようになることだけが行政法を学ぶ意義です。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 紛争とは何か。 第2回 誰に対して何を求めて訴えるのか 民事訴訟と行政訴訟 第3回 民事裁判はどのようにして始まり、どのように終わるのか 訴状、答弁書、判決 第4回 国の権力行為についてどのように戦うのか Case and controversyについて 第5回 法律そのものを争う場合と行政公務員の行為を争う場合の違いについて 抗告訴訟について 第6回 通達を争うことはできるか 内部行為、規範統制 第7回 権力行為について誰でも裁判ができるか 原告適格について 第8回 遅すぎる裁判は許されるか 出訴期限と訴えの利益 第9回 行政指導は争えるか 処分性について 第10回 行政の将来の行為を義務付けることができるか 義務付け訴訟と差し止め訴訟 第11回 裁判中は行政は権力行為をやめてくれるか 執行不停止原則と仮の救済について 第12回 裁判には勝ったけど・・・ 判決の拘束力、事情判決 第13回 学校内の体罰や警察官の暴力についてはどのように争うのか
履修上の注意	教科書は使わず、民事訴訟、行政訴訟を持参すること。六法をもたずに教室に入ることはできない。 第14回 欠陥公共プールでの事故はどのように救済されるか 施設管理者の責任論、国賠 第15回 裁判より簡単な解決はないか 行政不服審査
教科書	六法の種類については第一回目に指示する。
参考書	
成績評価方法	成績評価は、 レポートあるいはプレゼン（60％） 講義への参加姿勢（40％） の2点から評価します。

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0331	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7190 (研究室)
	E-mail					yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	この講義では、刑法をはじめとするあらゆる刑罰法規に適用される刑法第1編総則の前半部分について勉強します。 後半部分については今年度は不開講予定の刑法総論 で勉強することになります。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確保するために小テストを行うことを予定しています。
達成目標	(1) 犯罪とは何かについての理解すること。 (2) 刑法の基本概念を理解すること。 (3) 行為概念と構成要件について理解すること。 (4) 違法性について理解すること。 (5) 違法性阻却事由について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。誰が、いつ、どんな場合に裁判員に選ばれるかもしれません。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ひます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 刑法とは何か、刑法総論とは何か 第2回 刑法の基本原則 第3回 刑罰の基礎的問題 第4回 罪刑法定主義 第5回 刑法の適用範囲 第6回 犯罪論の体系 第7回 行為と構成要件 第8回 因果関係(1) 第9回 因果関係(2) 第10回 不作為犯(1) 第11回 不作為犯(2) 第12回 違法性の意義と機能 第13回 可罰的違法性と違法性 第14回 違法性と違法阻却事由 第15回 正当行為 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 教科書を事前に読んで、予習してください。 平成28年度版の六法を必ず持参してください。 ノートをとってください。
教科書	『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年)
参考書	『刑法入門』山口厚著、岩波書店(2008年)
成績評価方法	期末試験(80%)、小テスト(10%)、出席を含む受講態度(10%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0333	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7190 (研究室)
	E-mail					yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	刑法第二編罪の内、個人的法益に関する罪を勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 生命・身体に対する罪について理解すること (2) 身体の自由に対する罪について理解すること。 (3) 人格的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まり、色々な問題も指摘されています。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 刑法各論とは何か、刑法の基本原則 第2回 殺人の罪 第3回 傷害の罪(1) 第4回 傷害の罪(2) 第5回 過失傷害の罪 第6回 堕胎の罪 第7回 遺棄の罪 第8回 脅迫の罪 第9回 逮捕・監禁の罪 第10回 略取、誘拐及び人身売買の罪 第11回 姦淫の罪 第12回 住居を侵す罪 第13回 秘密を侵す罪 第14回 名誉に対する罪 第15回 信用及び業務に対する罪 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(遅く、若しくは、速く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に履修することが望ましい。 平成28年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	「新版口述刑法各論[補訂3版]」中山研一著、松宮孝明補訂成文堂(2014年)
参考書	特になし。必要な場合にはレジュメ等で伝えます。
成績評価方法	期末試験(80%)、小テスト(10%)、出席を含む受講態度(10%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0334	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7190 (研究室)
	E-mail					yt-1020@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	刑法第2編罪の内、刑法各論 の続きを、財産犯を中心に、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪などについても勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するための小テストも行います。
達成目標	(1) 財産犯の共通概念について理解すること。 (2) 個々の財産犯について理解すること。 (3) 社会的法益に対する罪について理解すること。 (4) 国家的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 財産犯総論(1) 第2回 財産犯総論(2) 第3回 窃盗の罪(1) 第4回 窃盗の罪(2) 第5回 強盗の罪 第6回 詐欺の罪(1) 第7回 詐欺の罪(2) 第8回 恐喝の罪 第9回 横領の罪 第10回 背任の罪 第11回 盗品に関する罪、毀棄及び隠匿の罪 第12回 社会的法益に対する罪(1) 第13回 社会的法益に対する罪(2) 第14回 国家的法益に対する罪(1) 第15回 国家的法益に対する罪(2) *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に、刑法各論 を履修していることが望ましい。 平成28年度版の六法を必ず持参すること。 ノートをとってください。
教科書	「新版口述刑法各論[補訂3版]」中山研一著、松宮孝明補訂成文堂(2014年)
参考書	特になし。必要な場合には、レジュメ等で伝えます。
成績評価方法	期末試験(80%)、小テスト(10%)、出席を含む受講態度(10%)を総合して評価します。

科目名	民事訴訟法	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0341	担当教員	本澤 友彬	所属	丸の内法律事務所	
連絡先	電話					088-824-1088
	E-mail					honzawa@htlawoffice.com

授業概要 (テーマ等)	民事訴訟の仕組みと手続の概略、および、重要概念の解説。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 民事訴訟制度の意義と目的について理解できるようになる。 (2) 民事法の考え方を習得することができるようになる。 (3) 民法訴訟の手続の具体的なイメージを持つことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>刑事訴訟については、裁判員裁判の導入や報道等があり、ある程度イメージがわかりやすいと思いますが、民事裁判については、イメージがわきにくいのではないかと思います。しかし、市民生活の中ではむしろ巻き込まれる可能性が高いのは民事裁判かもしれません。民事裁判についてある程度のイメージや知識を持つことは、今後の市民生活においても役に立ち場面があると思います。</p> <p>そこで、具体例(夫に浮気されたので慰謝料を請求したい等)を使って、授業の中で、民事訴訟の流れをシミュレーションしてみたいと思います。そのシミュレーションの中で、民事訴訟法の重要な用語や論点について触れていきます。また、訴訟実務の話や、実際にどのような紛争のケースがあるのかなどのお話もしていきたいと思っています。</p> <p>必要な書籍は、六法です。レジユメを配布する予定です。基本的には、講義であり、質問(教科書の要らない程度のも)。または、以前授業で触れた事柄等)はたまにする程度を予定しています。</p> <p>民法を少し勉強している方が望ましいです。</p> <p>第1回 講義ガイダンス 講義の進め方 訴訟の目的 第2回 訴えの提起(1) 訴訟の主体など 第3回 訴えの提起(2) 処分権主義 第4回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(1) 裁判所による争点整理 第5回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(2) 弁論主義 第6回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(3) 弁論主義 第7回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(4) 自由心証主義・証明責任 第8回 判決以外の訴訟の終了 第9回 裁判官による判断内容・判決(1) 第10回 裁判官による判断内容・判決(2) 第11回 判決後の手続・判決の効力の概説 第12回 判決の効力についての論点(1) 第13回 判決の効力についての論点(2) 第14回 通常訴訟以外の訴訟 第15回 講義の復習とまとめ</p>
履修上の注意	第13回 判決の効力についての論点(2) 第14回 通常訴訟以外の訴訟 第15回 講義の復習とまとめ
教科書	ポケット六法等の六法(3000円以下のもので可。電子六法でも可)
参考書	授業で指摘します。
成績評価方法	期末の試験(60%)、講義への参加姿勢(40%)などから総合的に評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0351	担当教員	林 良太	所属	岩崎淳司法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の総則編を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。基本的には講師が説明することで、受講生には「民法総則の知識」というよりは「民法の考え方」を身に着けられることを目標とします。
達成目標	(1) 民法（総則編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 民法の基本的な仕組み 第3回 権利の主体（ ）自然人 第4回 権利の主体（ ）法人 第5回 物・意思表示による権利変動 第6回 意思表示の瑕疵（1） 第7回 意思表示の瑕疵（2） 第8回 契約の不当性 第9回 無効と取消し 第10回 代理（1） 第11回 代理（2） 第12回 代理（3） 第13回 法律行為の効力発生時期 第14回 時効 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法(債権) を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	民法1 総則（有斐閣双書）有斐閣 2002年 *必須ではありません。レジユメを毎回配布します。なお、ポケット六法もあれば望ましい。
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0352	担当教員	南 拓人	所属	梶原法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の物権編（物権総則・担保物権）の講義をします。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 民法（物権編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。 (4) 論理的思考を身に付ける。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 物権法序説，所有権（1） 第3回 所有権（2） 第4回 所有権（3） 第5回 占有権 第6回 物権変動（1） 第7回 物権変動（2） 第8回 物権変動（3），用益物権 第9回 担保物権序説，留置権 第10回 先取特権，質権 第11回 抵当権（1） 第12回 抵当権（2） 第13回 抵当権（3），譲渡担保（1） 第14回 譲渡担保（2），所有権留保 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。民法（総則・物権）を受講しておくこと。また、民法(債権)を同時並行して受講することが望ましい。講義を受ける際には、六法（適宜のもので構わない。）を必ず持参すること。
教科書	淡路剛久・鎌田薫・原田純孝・生熊長幸著『民法II - 物権 第3版補訂』（有斐閣，2010年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0361	担当教員	緒方 賢一	所属	高知大学社会科学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法第三編債権のうち、第1章（総則）の部分を中心に講義をします。 民法(総則・物権) を履修済みであることを前提に講義をします。 民法（債権）（2学期開講予定）に続く内容ですが、先に民法（債権） を履修していてもかまいません。
授業の進め方	講義形式で行います。 法律学的な知識の確認を中心にしますが、判例等、社会的現実の中で「実際どうなのか」についても考えながら、総合的に法律を理解していきます。 講義期間中に小課題を課し、その上で期末試験を実施しますので、受講生は講義時間外で相当の自学自習をすることが必要です。期末試験は、受講者数によってはレポート試験にすることもあります。
達成目標	(1) 民法（債権総論部分）の基礎的内容について理解できるようになる。 (2) 社会的現実の中で法がどのように機能しているかについて理解できるようになる。 (3) 判例等を読んで法律的内容を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的内容)	講義は概ね以下のような順序で行います。 第1回 債権の目的 第2回 債権の効力 第3回 債務不履行責任 第4回 弁済 第5回 相殺 第6回 更改・免除・混同 第7回 債権譲渡 第8回 債権者代位権 第9回 債権者取消権 第10回 多数当事者の債権 第11回 連帯債務 第12回 保証債務 第13回 連帯保証 第14回 民法債権法の改正 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。
教科書	六法（なるべく最新版・種類は問わない）は毎回必ず持参して下さい（講義中に条文を参照し、書き写してもらいます）。
参考書	別冊ジュリスト224 民法判例百選（2015年 有斐閣）。
成績評価方法	期末試験（教場試験又はレポート試験60%）および小課題2回（20%）、講義への参加姿勢（20%）により総合評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0362	担当教員	緒方 賢一	所属	高知大学人文社会科学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法第三編債権のうち、第1章（総則）の部分を中心に講義をします。 民法(総則・物権) を履修済みであることを前提に講義をします。 民法（債権）（1学期開講）に続く内容ですが、先に民法（債権） を履修していなくてもかまいません。
授業の進め方	講義形式で行います。 法律学的な知識の確認を中心にしますが、判例等、社会的現実の中で「実際どうなのか」についても考えながら、総合的に法律を理解していきます。 講義期間中に小課題を課し、その上で期末試験を実施しますので、受講生は講義時間外で相当の自学自習をすることが必要です。期末試験は、受講人数によってはレポート試験にすることもあります。
達成目標	(1) 民法（債権各論部分）の基礎的内容について理解できるようになる。 (2) 社会的現実の中で法がどのように機能しているかについて理解できるようになる。 (3) 判例等を読んで法律的内容を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的内容)	講義は概ね以下の順序で進めます。 第1回 契約の種類 第2回 契約締結上の諸問題 第3回 契約の効力 第4回 契約の解除 第5回 売買契約 第6回 貸借契約 第7回 役務提供契約 第8回 約款と消費者保護 第9回 事務管理 第10回 不当利得 第11回 不法行為法の歴史 第12回 共同不法行為 第13回 無過失責任主義 第14回 裁判外紛争処理 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。
教科書	六法（なるべく最新版・種類は問わない）は毎回必ず持参して下さい（講義中に条文を参照し、書き写してもらいます）。
参考書	別冊ジュリスト224 民法判例百選（2015年 有斐閣）。
成績評価方法	期末試験（教場試験またはレポート試験60%）および小課題2回（20%）、講義への参加姿勢（20%）により総合評価します。

科目名	民法（家族）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0371	担当教員	中橋 紅美	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	家族と家族の法について学びます。夫婦、親子、扶養、後見、相続などの家族関係を規定している法律が、民法の親族編・相続編です。本講義では、民法親族編・相続編の基本的な内容について学びつつ、実務で直面した体験談等も踏まえながら、法律を身近に感じてもらい、法律が現実社会にどのような影響しているかを考えます。
授業の進め方	教科書は特に指定しませんが、何でもいいので民法の親族編・相続編(家族法)に関する文献を購入し、各回のテーマに該当する部分を読んできてもらえれば、講義の理解が深まると思います。講義は主に口頭で行い、その補助として板書をします。
達成目標	(1) 民法親族法・相続法の基礎的内容が理解できる。 (2) 民法上の基本的な法律用語を正しく理解し、生活上必要な知識として活用できる。 (3) 家族に関して、法と社会的現実の関係について理解できる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	本講義では、毎回テーマを決め、そのテーマについて講義をします。講義のテーマは以下のとおりです。 第1回 オリエンテーション・家族法の概要 第2回 結婚 第3回 離婚 第4回 離婚に伴う財産関係 第5回 離婚に伴う財産関係 第6回 親子(実子) 第7回 親子(養子) 第8回 後見・扶養 第9回 相続の概要 第10回 相続分 第11回 相続の効果 第12回 相続回復請求、相続の承認・放棄 第13回 遺産分割 第14回 遺言 第15回 遺留分 以上のテーマについて講義をする予定です。講義は基本的には上記の順で行いますが、場合によっては入れ替えることもあります。
履修上の注意	2009年度以前の「民法」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。民法(総則・物権)・民法(債権)に続く科目ですが、これらの内容を理解していることを前提とはしません。民法についてはごく基本的な内容を講義するのにとどめ、法律をはじめて受講する人でもついていける内容にします。
教科書	『六法』。出版社は問いませんが、最新版を用意してください。期末試験にも使います。
参考書	*あくまで一例です。 『家族法(第3版)』二宮周平著、新世社(2013年) 『はじめての家族法』常岡史子編、成文堂(2013年) 『身近な家族法』川村隆子著、法律文化社(2010年)
成績評価方法	期末試験を行います。期末試験の成績(70%)、講義への参加姿勢(30%)で総合評価します。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0391	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とします。私たち市民の生活関係を規律する法としては、民法がありますが、なぜ独立した法領域として商法が存在するのか、それぞれの規定の意義とは何かについて学びます。商法（総則・商行為）では企業取引の主体である商人とは何かを中心に講義を進めていきます。
授業の進め方	講義形式・演習形式を併用した形ですすめる。 教科書の各章の冒頭に判例が記載されているので、事前に読んでおくこと。
達成目標	(1) 商法の意義、特徴について理解できるようになる。 (2) 商人概念、商行為概念について理解できるようになる。 (3) 企業を構成する要素について理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 インTRODククション 第2回 商法の法源と適用順位 第3回 商人概念と商行為概念 第4回 商人資格と取得時期 第5回 商業登記 第6回 商業登記の効力 第7回 商号 第8回 名板貸 第9回 営業と営業譲渡 第10回 営業譲渡人の債権者・債務者 第11回 商業帳簿 第12回 商業使用人 第13回 支配人と表見支配人 第14回 代理商 第15回 商事代理
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 商法は民法の特別法であるので、民法がすでに履修済みであるか、並行して履修していることが望ましい。
教科書	『特別講義 改正商法総則・商行為法 第3版補訂版』青竹正一著、成文堂（2014年） 六法を必ず持参してください。
参考書	『リーガルマインド商法総則・商行為法 第2版補訂版』弥永真生著、有斐閣（2014年） 『商法 総則・商行為 第5版』落合誠一、大塚龍児、山下友信著、有斐閣（2013年） 『商法判例集 第6版』山下友信・神田秀樹編、有斐閣（2014年）
成績評価方法	期末試験(40%)、中期レポート(40%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。中期レポートを提出しない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意してください。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0392	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7185
	E-mail					na0to3@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とします。私たち市民の生活関係を規律する法としては、民法がありますが、なぜ独立した法領域として商法が存在するのか、それぞれの規定の意義とは何かについて学びます。商法（総則・商行為）では具体的な商取引およびその法規制について学んでいきます。
授業の進め方	講義形式・演習形式を併用した形ですめる。 教科書の各章の冒頭に判例が記載されているので、事前に読んでおくこと。
達成目標	(1) 商行為の特則とは何かについて理解できるようになる。 (2) 企業取引に特有の各種契約と法規制について、概要がわかるようになる。 (3) 企業に関する法律問題に関心をもつようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 イン트로ダクション 第2回 商行為とは 第3回 商人の報酬請求権、商事法定利率、商事時効 第4回 商事売買 第5回 消費者売買 第6回 消費者契約法 第7回 交互計算と匿名組合 第8回 仲立営業 第9回 問屋営業 第10回 運送契約と貨物引換証 第11回 運送人の責任 第12回 商事寄託と場屋営業 第13回 倉庫営業 第14回 損害保険 第15回 生命保険
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 商法は民法の特別法であるので、民法がすでに履修しているか、並行して履修していることが望ましいです。
教科書	『特別講義 改正商法総則・商行為法 第3版補訂版』青竹正一著、成文堂（2014年） 六法を必ず持参してください。
参考書	『リーガルマインド商法総則・商行為法 第2版補訂版』弥永真生著、有斐閣（2014年） 『商法 総則・商行為 第5版』落合誠一、大塚龍児、山下友信著、有斐閣（2013年） 『商法判例集 第6版』山下友信・神田秀樹編、有斐閣（2014年）
成績評価方法	期末試験(40%)、中期レポート(40%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。中期レポートを提出しない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意してください。

科目名	商法（会社）	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0401	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7185
	E-mail					na0to3@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。
授業の進め方	講義形式・演習形式を併用した形です。すめる。
達成目標	(1) 株式会社の特徴について理解できるようになる。 (2) 株式の意義、株主の権利について理解する。 (3) 株式会社の機関の仕組み、役員の義務と責任の内容について理解する。 (4) 会社の設立手続きについて理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 ガイダンス 第2回 会社法総論 第3回 会社の設立 第4回 設立登記、設立中の法律関係 第5回 株式とは何か 第6回 株式の種類 第7回 株主名簿、株式の消却、併合、分割 第8回 機関総論 第9回 株主総会 第10回 株主総会の決議 第11回 株主総会と決議の瑕疵 第12回 取締役と取締役会 第13回 取締役の義務と責任 第14回 株主代表訴訟と差止請求権、第三者に対する責任 第15回 監査役と監査役会
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法をすでに履修しているか、並行して履修していることが望ましい。
教科書	『リーガルクエスト会社法 第3版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2015年） 六法を必ず持参してください。
参考書	『会社法 第18版』神田秀樹著、弘文堂（2016年） 『商法判例集 第6版』山下友信・神田秀樹編、有斐閣（2014年）
成績評価方法	学期末試験（40%）、中期レポート（40%）講義への参加姿勢（20%）により総合的に評価します。中期レポートを提出しない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意してください。

科目名	商法（会社）	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0402	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7185
	E-mail					na0to3@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。
授業の進め方	講義形式・演習形式を併用した形ですすめる。
達成目標	(1) 会社法上の会計の意義について理解する (2) 新株発行や社債発行など、企業の資金調達について理解する (3) 会社の組織再編について理解する
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 イン트로ダクション 第2回 会社の計算 第3回 連結計算書類、利益の分配、株主の帳簿閲覧権 第4回 資金調達とは 第5回 新株発行 第6回 新株発行の瑕疵 第7回 社債 第8回 定款変更の意義と手続 第9回 資本の減少 第10回 企業の買収・結合・再編 第11回 会社の合併 第12回 会社の分割 第13回 株式交換・株式移転 第14回 会社の解散と清算 第15回 持分会社
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法をすでに履修しているか、並行して履修していることが望ましいです。
教科書	『リーガルクエスト会社法 第3版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2015年） 六法を必ず持参してください。
参考書	『会社法 第18版』神田秀樹著、弘文堂（2016年） 『商法判例集 第6版』山下友信・神田秀樹編、有斐閣（2014年）
成績評価方法	期末試験(40%)、中期レポート（40%）、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。中期レポートを提出しない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意してください。

科目名	労働法	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0420	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7184 (研究室)
	E-mail					negishi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>わたしたちは、働くことによって生活の糧を得るのであり、また、多くの時間を労働に費やしているのだから、雇用関係を規制する法や労働者が有する権利を知っておくことはきわめて重要である。</p> <p>具体的には、採用内定や試用期間、人事といった職業生活の各場面について、我が国の雇用関係が形成されてきた文化的な背景もふまえながら、どのような法規制がなされているのかを考えてみることにしたい。</p>
授業の進め方	演習形式で進める。受講生が教科書の割り当てられた部分を毎回報告し、それを前提に議論を行う。
達成目標	<p>(1)労働法の理念を学ぶ。</p> <p>(2)労働法をめぐる当事者(労働者、労働組合、使用者)の関係について理解を深める。</p> <p>(3)労働条件を規制するもの(労働契約、就業規則、労働協約)の関係について理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 労働法とは何か</p> <p>第3回 労働契約の意義、労働法の適用対象</p> <p>第4回 労働契約と労働者の権利義務</p> <p>第5回 募集と採用</p> <p>第6回 労働条件の決定(1)</p> <p>第7回 労働条件の決定(2)</p> <p>第8回 労働条件の変更</p> <p>第9回 人事(1)配転、出向</p> <p>第10回 人事(2)転籍</p> <p>第11回 人事(3)懲戒処分</p> <p>第12回 労働時間(1)労働時間の定義</p> <p>第13回 労働時間(2)弾力的な労働時間</p> <p>第14回 休憩、休日、年次有給休暇(1)休憩、休日</p> <p>第15回 休憩、休日、年次有給休暇(2)年次有給休暇</p>
履修上の注意	<p>労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわるため、これら科目をすでに履修していることを要する。かりに履修していない場合は、これら科目を理解していることを前提として授業を行う。本授業は、労働法 と連続した講義である。</p> <p>教科書は各自で生協やネットなどで注文し、第1回授業時に必ず持ってくることを要する。その際に報告の順番や担当箇所を決める。第1回授業時に教科書を持ってこない者は受講資格を有さない。</p>
教科書	<p>金子征史ほか『基礎から学ぶ労働法 第3版』(エイデル研究所、平成24年)</p> <p>金子征史ほか編『基礎から学ぶ労働法 』(エイデル研究所、平成25年)</p>
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	報告内容(100%)

科目名	労働法	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0430	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7184 (研究室)
	E-mail					negishi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	本講義では、労働法 につづいて、賃金や雇用平等などに関してどのような法規制がなされているかにつき、文化的な背景もふまえて見ていくこととする。さらに、労働法の規制の要ともいえる、解雇を中心とした労働契約の終了について学ぶこととする。
授業の進め方	演習形式で進める。受講生が教科書の割り当てられた部分を毎回報告し、それを前提に議論を行う。
達成目標	(1)労基法を中心とした法律が、どのように労働関係を規制しているかを学ぶ。 (2)近時問題となっている非正規労働者の処遇について理解する。 (3)解雇を中心とした労働契約の終了につき、判例及び法令上どのような規制がなされているかを理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに 第2回 賃金(1)賃金の定義 第3回 賃金(2)賃金支払いの原則、最低賃金 第4回 賃金(3)賞与、退職金 第5回 雇用平等(1) 第6回 雇用平等(2) 第7回 ワーク・ライフ・バランス 第8回 非正規労働者の処遇(1)パートタイム労働 第9回 非正規労働者の処遇(2)派遣労働 第10回 労働契約の終了(1)労働契約の終了事由 第11回 労働契約の終了(2)解雇(1) 第12回 労働契約の終了(3)解雇(2) 第13回 労働契約の終了(4)有期契約の雇い止め、労働契約終了後の法規制 第14回 職業紹介・教育訓練(1) 第15回 職業紹介・教育訓練(2)
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわるため、これら科目をすでに履修していることを要する。かりに履修していない場合は、これら科目を理解していることを前提として授業を行う。また、この授業は労働法 と連続した講義であり、労働法 の内容をすでに理解していることを前提とする。 教科書は各自で生協やネットなどで注文し、第1回授業時に必ず持ってくることを要する。その際に報告の順番や担当箇所を決める。第1回授業時に教科書を持ってこない者は受講資格を有さない。
教科書	金子征史ほか編『基礎から学ぶ労働法 第3版』(エイデル研究所、平成24年) 金子征史ほか編『基礎から学ぶ労働法 』(エイデル研究所、平成25年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	報告内容(100%)

科目名	基礎法学	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0432	担当教員	赤間 聡	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国会や各行政機関、裁判所がどのように法に向き合うのか。我々によって法とは何か、正義とは何か、自由とは何かといった法哲学の基本問題を問う。
授業の進め方	下に挙げる教科書に沿いつつ、時には判例や新聞記事を用いて、多面的に法を考察する。各自の報告が授業の主体である。
達成目標	自分の人生の指針、あるべき社会の理想像を模索できる批判的判断力をもてるようにする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 基礎法学 のオリエンテーション 哲学をやるということはどのようなことか</p> <p>第2回 法哲学とは何か 法律についての様々な問い</p> <p>第3回 法律と道徳は同じか 法律の外側性</p> <p>第4回 なぜ、警察官の命令には従わなくてはならないか、あるいは従う必要はないか 法体系について</p> <p>第5回 この世に悪い法律はあるか 正法論、法実証主義</p> <p>第6回 誰も従わない法律はあり得るか 法の妥当性と通用性</p> <p>第7回 法律家のものの見方と一般人のものの見方はどこが違うか 法的思考の特徴</p> <p>第8回 判決とはどのような文章か 結論と理由について</p> <p>第9回 裁判官は本当に中立か 直観と正当化について</p> <p>第10回 判決は予測できるか 法的安定性について</p> <p>第11回 判決は論理的であるといえるか 法的三段論法について</p> <p>第12回 犯罪事実について100%の証明はあるか 事実認定について</p>
履修上の注意	<p>第13回 法学とは現実に何を成し得たかという問いです。法律のことは詳しくは知らなくとも、「何か違う」という感覚をもつこと、問題を考える資質があるということです。毎回、いろいろな問題を一緒に考えていきます。決して理解できないか、問題を解ききれないか、公平と衡平について</p> <p>第15回 まとめ</p>
教科書	『法哲学』平野仁彦・亀本洋・服部高宏著、有斐閣（2002年）、ISBN 4-641-12148-6
参考書	参考書は授業のテーマとの関係でその都度紹介する予定
成績評価方法	成績評価は3回程度のプレゼンを総合して判定する。 プレゼン70% 講義への参加姿勢30%

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0440	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7184 (研究室)
	E-mail					negishi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>社会保障は、現在、国民の大きな関心事となっており、これからも重要な法改正がなされていくであろうことは疑いようがない。本授業では、まず、社会保障の定義、その歴史や社会保障が形成されてきた文化的な背景を概観した上で、社会保険に焦点を当てて進めることとする(ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険は社会保障法 で扱うため、この授業では扱わない)。</p>
授業の進め方	<p>演習形式で進める。受講生が教科書の割り当てられた部分を毎回報告し、それを前提に議論を行う。</p>
達成目標	<p>(1)社会保障法の理念を学ぶ。 (2)社会保障を構成する各制度について理解を深める。 (3)受給者や要保障事由について理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 はじめに 第2回 社会保障とは何か 第3回 社会保障の歴史 第4回 医療保障(1)保険関係 第5回 医療保障(2)給付の種類 第6回 医療保障(3)医療提供者 第7回 医療保障(4)診療契約と保険診療 第8回 年金保険(1)保険関係 第9回 年金保険(2)老齢給付 第10回 年金保険(3)障害給付、遺族給付 第11回 労災補償(1)保険関係 第12回 労災補償(2)給付の種類 第13回 労災補償(3)労災民訴と労災保険の関係 第14回 雇用保険(1)保険関係 第15回 雇用保険(2)給付の種類</p>
履修上の注意	<p>社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、民法、労働法といった他の法分野と密接にかかわるため、これら科目をすでに履修していることを要する。かりに履修していない場合は、これら科目を理解していることを前提として授業を行う。 教科書は各自で生協やネットなどで注文し、第1回授業時に必ず持ってくることを要する。その際に報告の順番や担当箇所を決める。第1回授業時に教科書を持ってこない者は受講資格を有さない。</p>
教科書	<p>本沢巳代子、新田秀樹編著『トピック社会保障法 2016第10版』(不磨書房、平成28年) 金子征史ほか編『基礎から学ぶ労働法』(エイデル研究所、平成25年)</p>
参考書	<p>開講時に指示する。</p>
成績評価方法	<p>報告(100%)</p>

科目名	経済原論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0492	担当教員	森本 壮亮	所属	桃山学院大学経済学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済原論（マルクス経済学）の基礎的な理論と、そこから見える現代経済について講義します。昨夏の「経済原論I」や、「経済学I」「経済学II」に接続している科目です。 ・「経済原論I」を受講していない人でも理解できるよう、授業の前半に「経済原論I」の内容の復習もしながら、「経済原論I」で取り扱えなかったテーマについて、講義していきます。 ・講義の内容は、『資本論』の第2巻・第3巻を中心とする予定です。
授業の進め方	基本は講義によって進めます。テキストやレジュメは用いず、板書を基本としますので、ノートを用意して講義にのぞんでください。また、毎日の授業の最後に、その日の内容に関する小テストのようなものを行います。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 経済学の基礎概念・基礎理論を理解すること。 (2) 今、日本で、世界で、どのような経済問題が起こっているか、知ること。 (3) そして、そのような経済問題について、自分なりに分析し、意見を持てるようになること。 (4) 経済に対してきちんとした理解を持つことで、将来日本経済がどのような状況に陥っても、自分はどのようにしたら良いか判断できるようになること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>授業は、次のような順序で進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 現代の経済問題 第2回 商品の価値と貨幣 第3回 金融と実体経済 第4回 資本の一般的定式 第5回 利潤の源泉と労働力の価値 第6回 絶対的剰余価値の生産と相対的剰余価値の生産 第7回 資本の循環 第8回 資本の回転 第9回 地域内再投資力 第10回 地代 第11回 競争と企業利潤(1)：部門内競争 第12回 競争と企業利潤(2)：部門間競争 第13回 利潤率の傾向的低下法則と資本の過剰 第14回 単純再生産表式 第15回 拡大再生産表式と産業の空洞化 第16回 筆記試験
履修上の注意	経済学に関する予備知識は必要としません。きちんと授業に出席すれば理解できるように説明します。授業には欠かさず出席し、わからないところはそのつど質問するようにしてください。
教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・K.マルクス『資本論』（新日本出版社、大月書店など） ・A.グリーン『狂奔する資本主義 格差社会から新たな福祉社会へ』（ダイヤモンド社、2007年） ・小西一雄『資本主義の成熟と転換 現代の信用と恐慌』（桜井書店、2014年）
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・D.ハートマン『資本の謎と、世界金融恐慌と21世紀資本主義』（作楽社、2012年） ・橋本寿朗『デフレの進行をどう読むか―見落された利潤圧縮メカニズム』（岩波書店、2002年） ・『週刊ダイヤモンド』2016年1月30日号（三菱 最強伝説） <p>毎日の授業最後に資料の小テスト（最終日は筆記試験）を行い、その結果を成績評価にします。</p>

科目名	経済史	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0493	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	主として、近世以降のヨーロッパおよびアメリカを対象に、西洋経済史の基礎概念と方法論を系統的に学びます。特に、近代世界システム論に依拠しながらイギリス・オランダ・フランス・アメリカ合衆国等の近代化・工業化の過程を比較史的に検討する一方、今年度は特に資源環境問題から見た環境経済史の課題にも「化石燃料の時代の岐路に」と題して石炭から石油へ、そしてエネルギー転換の課題と現状を例にできる限り言及していく予定です。
授業の進め方	主として、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年、部分的に扱うため購入の必要はありません）などの主要項目をとりあげ、統計や地図の資料プリントを配付しながら講義形式で授業を進めます。こんにちのグローバル資本主義に至る西洋経済史の流れを、できる限りビデオ等のビジュアル資料を活用しながら検討します。また、近時環境史の現代的課題を意識し、アメリカ合衆国における原油発見とロックフェラー財閥の成立あるいは中近東における原油産出の事例なども新聞記事やビデオ『石油』等を活用しながら言及し講義を進めていく予定です。
達成目標	(1)経済史学にとって重要な諸概念(例えば重商主義・古典派経済学等)を理解できるようにする。 (2)欧米と日本を比較しながら比較経済史学の分析手法を学ぶ。 (3)近世・近代の比較経済史に関わる代表的理論や経済学史上重要な学説の背景を知る。 (4)西欧および日本の工業化と19世紀アジア諸国の植民地化・植民地化の対比的把握のため近代世界システム論の「中核・半周辺・周辺」等の諸概念を理解できるようにする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の事項を中心に、毎回配布の資料プリントを用いながら、検討を試みます。 第1回 はじめに（授業ガイダンスと問題提起：環境問題の現状と格差資本主義論から） 第2回 序論（現状分析と理論的把握の必要性：二つの発展段階論の破綻） 第3回 理論的前提（発想の転換：堺憲一『あなたが歴史に出会うとき』を手がかりに） 第4回 「商業革命」（大航海時代の開始による貿易構造の大転換） 第5回 「近代世界システム」の成立とオランダのヘゲモニー（「覇権」）確立 第6回 二つの「重商主義」（イギリスを例に） 第7回 ブルジョワ革命の課題（フランスの場合） 第8回 イギリス・最初の工業化の歴史的前提 第9回 アメリカ合衆国の工業化 第10回 化石燃料の時代へ（その1石炭の重要性） 第11回 「世界の工場」イギリスと「19世紀アジアの三角貿易」 第12回 「石油の時代」へ - - ロックフェラーと中東産油国の登場 第13回 南北問題・環境問題から見た経済史学の課題 第14回 まとめと補足 第15回 展望
履修上の注意	高等学校公民の政経もしくは現代社会、あるいは地歴世界史A程度の基礎知識を前提としますが、講義時に適宜紹介する入門的参考文献等を付属図書館等で参照していただければ未履修でも充分に対応可能です。
教科書	購入の必要はありませんが、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年）の一部を参考にしながら講義し、毎回統計地図資料などのプリントを配布する予定です。
参考書	『イギリス近代史講義』川北稔著、講談社現代新書（2010年）、『日本鉄道史--幕末・明治篇』老川慶喜著、同『同・大正昭和戦前篇』中公新書（2014年、2016年）など
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。

科目名	マクロ経済学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0495	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7189 (研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	マクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	教科書を読みながら進める。その中で理解を深めるため、質疑応答を行う。
達成目標	(1) 経済データの見方が分かるようになる。 (2) 経済成長について考えることができるようになる。 (3) 景気変動と財政・金融政策の効果を理解できるようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに、国民所得の測定1 (教科書第5章) 第2回 国民所得の測定2 (同上) 第3回 生計費の測定1 (教科書第6章) 第4回 生計費の測定2 (同上) 第5回 生産と成長1 (教科書第7章) 第6回 生産と成長2 (同上) 第7回 貯蓄、投資と金融システム1 (教科書第8章) 第8回 貯蓄、投資と金融システム2 (同上) 第9回 失業1 (教科書第10章) 第10回 失業2 (同上) 第11回 貨幣システム1 (教科書第11章) 第12回 貨幣システム2 (同上) 第13回 貨幣量の成長とインフレーション (教科書第12章) 第14回 貨幣量の成長とインフレーション (同上) 第15回 おわりに：総需要に対する金融・財政政策の影響 (教科書第16章)
履修上の注意	2010年度以前の「国民所得論」を履修済みの場合、この科目を履修することはできません。 「経済学」を履修済み、もしくはそれに相当する知識を修得していれば望ましい。
教科書	『マンキュー経済学 マクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社 (2014年) の第5～8、10～12、16章
参考書	
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に (50%)、受講態度 (50%) を加味して評価する。ただし、質疑応答等、学生の授業への取り組み度合等によって、評価方法を変えることがある。

科目名	現代資本主義論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0496	担当教員	中西 三紀	所属	高知大学人文社会科学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>1980年代以降、世界は大きく変わったといわれています。いわゆる「グローバル化の時代」の到来です。世界経済の面でこのグローバリゼーションを牽引したのは「新自由主義」(ネオリベリズム)と呼ばれる思想です。しかし、2008年の世界経済危機を契機として、新自由主義への過度の傾倒に対する批判が高まり、現在は「ポスト・新自由主義」と呼ばれる時代に入っています。現代資本主義を考えるに際しては、この新自由主義という思想を理解する必要があります。</p> <p>この授業では、新自由主義の考え方を概観し、そのもとで生じた変化をいくつかの事例をもとに検討し、最後に新自由主義に対するオルタナティブを紹介したいと思います。</p>
授業の進め方	<p>毎回レジュメを配付し、それをもとに講義を進めていきます。 授業終了後に質疑応答の時間を設けます。</p>
達成目標	<p>(1)現代資本主義の成り立ち、思想的背景、そのもとで現実に生じている問題について理解できるようになる。 (2)現代社会に対して批判的に考察できるようになる。 (3)これからの社会について、主体的に考えられるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>授業計画は以下の通りです。ただし、授業計画は大体の目安であり、回数が若干前後する可能性があることをあらかじめお断りしておきます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 資本主義の成り立ち(1) 第3回 資本主義の成り立ち(2) 第4回 資本主義の成り立ち(3) 第5回 米国経済の相対的地位低下 第6回 レーガノミクス 第7回 新自由主義について(1) 第8回 新自由主義について(2) 第9回 GATTウルグアイラウンドからWTOへ 第10回 WTOからFTAへ 第11回 多国籍企業について 第12回 新興国について(1) 第13回 新興国について(2) 第14回 新自由主義へのオルタナティブ(1) 第15回 新自由主義へのオルタナティブ(2)</p>
履修上の注意	
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。 授業中に適宜紹介します。
成績評価方法	期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)などから総合的に評価します。

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0497	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7191 (研究室)
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化や、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、グローバル化の歴史と現段階を総括的に見た上で、おカネの動き、国際通貨問題に焦点をあて、グローバル化の意味を検討します。またそのために国際収支や為替相場など基礎的事項を学んでいきます。</p>
授業の進め方	<p>講義形式で進める予定ですが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらえようように、参加者の状況を見て進め方も柔軟に検討します。適宜、ビデオなども利用します。</p>
達成目標	<p>(1) 国際的な取引の基本的性格、国際収支の基本的考え方について理解を得る (2) 為替市場と為替相場についての基本的な理解を得る (3) 戦後の国際通貨体制の特徴と現在の問題について基礎的な理解を得る (4) 国際通貨問題への関心を深める</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>概ね次のように講義を進める予定ですが、第10回以後を重視し、第5回から第9回の部分は大きく削る可能性があります。受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。</p> <p>第1回 オリエンテーション - グローバリゼーションとは 第2回 グローバリゼーションの起源と歴史 - 原動力 第3回 グローバリゼーションの起源と歴史 - その歩み 第4回 グローバリゼーションの現段階 第5回 国際取引と国際収支 - 国際取引とは何か？ 第6回 国際取引と国際収支 - 赤字と黒字どちらが得？ 第7回 国際収支と為替相場 - 為替とは何か？ 第8回 国際収支と為替相場 - 為替相場はどう決まる？ 第9回 国際収支と為替相場 - 円高・円安の影響は？ 第10回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦前から戦後への大転換 第11回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦後のIMF体制の基本特徴 第12回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 固定相場制から変動相場制へ 第13回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 資本移動の拡大とその影響 第14回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 不安定化するドルと国際通貨協力 第15回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 欧州通貨統合とアジアでの通貨協力</p> <p>以上の講義を踏まえ、期末試験を行います。</p>
履修上の注意	<p>積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけの受講でもかまいません。</p>
教科書	<p>特に指定しません。</p>
参考書	<p>講義の中で適宜指示します。</p>
成績評価方法	<p>試験(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。</p>

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0498	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7191 (研究室)
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化や、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、モノの動き、国際貿易に焦点をあて、自由貿易を理念とする戦後の通商体制(GATT・WTO)とその下での貿易の拡大がどのような役割を果たしてきたか、特に地域経済への影響を意識して考えます。
授業の進め方	講義形式で進める予定ですが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうように、参加者の状況を見て進め方も柔軟に検討します。適宜、ビデオなども利用します。
達成目標	(1) 戦後自由貿易理念が登場する背景を理解する (2) 戦後自由貿易を促進してきたGATT・WTOの基本的な仕組みとルールを理解する (3) GATT・WTOの役割や課題について考える (4) 自由貿易の利益と問題点について考える
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね次のように講義を進める予定ですが、受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、また、受講生との議論を大切に進める関係で、順序や内容が一部変更になる場合や最後に扱う予定の地域統合の問題を削る場合もあります。 第1回 オリエンテーション - グローバル化はどこまで来たか？ 第2回 戦後世界とGATTの成立 第3回 GATT・WTOの貿易原則 第4回 GATT・WTOの貿易原則とその例外 第5回 GATTからWTOへ 第6回 WTO交渉の現状 第7回 GATT・WTOの理念と現実 - そのギャップ 第8回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易の理論：比較生産費説とは？ 第9回 GATT・WTOと南北問題 - 一次産品問題と途上国の自由貿易への反発 第10回 GATT・WTOと南北問題 - 資源をもつ国は強いのか？ 第11回 GATT・WTOと南北問題 - アジア途上国の成長と自由貿易の受容 第12回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易のメリットとデメリット 第13回 自由貿易と地域統合 - GATT・WTOと地域統合 第14回 自由貿易と地域統合 - 日本とアジアの地域統合の動き 第15回 自由貿易と現代：食糧問題、環境問題、労働問題
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけを受講してもかまいません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	試験(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。

科目名	金融論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0501	担当教員	海野 晋悟	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	金融の理論・制度は、金融の世界の参加者が、これを守れば混乱はおきないことを保証するものです。しかし、実際には、しばしばトンデモナイ混乱が起きています。日本のバブル崩壊や、リーマンショックも然り。この講義では、金融論という平穏な経済の運営の仕方の教科書と日本が経験したバブル経済の発生と崩壊という現実の教科書とを照らし合わせて、理論・制度と現実の違いを痛感し、将来自分が世の中の中心に入っていった、このような現象に出くわしたときに、取り乱すことなく冷静に判断し、対処できるようになればゴールです。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> *基本的に海野が話す講義スタイルですが、頻繁に学生に簡単なクイズを出します。それを受けて議論を深める講義スタイルです *講義内のクイズに対する発言は、正解を求めています *純粋に考えたことを思ったままに発言すればいいのです
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 金融の理論・制度と実際を理解する (2) 自分の考えていることを述べる・説明する
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 ガイダンス 第2回 イントロ：何を学ぶのか 第3回 企業の資金調達：理論 第4回 企業の資金調達：バブル経済 第5回 金融機関の役割：理論 第6回 金融機関の役割：理論 第7回 金融機関の役割：バブル経済 第8回 金融機関の役割：バブル経済 第9回 金融規制 第10回 金融規制 第11回 中間試験 第12回 映画鑑賞会 第13回 金融市場：金利 第14回 金融市場：株価 第15回 質問会
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> *金融に関して勉強意欲のある学生を望みます。 *事前の知識は必要ありません。 *真剣に勉強する学生に海野は最大限のサポートをします。 *講義への参加姿勢で20点が配点されているので、成績上位を考えている学生は積極的な講義参加が必要です
教科書	『グラフィック金融論』細野薫・渡辺和孝・石原秀彦著、新世社（2009年）
参考書	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> *講義への参加姿勢で20点が配点されているので、成績上位を考えている学生は積極的な講義参加が必要です *講義内の発言は、正解を求めています *純粋に考えたことを思ったままに発言すればいいのです 期末レポート（80点） 講義への参加姿勢（20点）

科目名	経済政策論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0505	担当教員	石筒 寛	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本の経済発展に経済政策がどのような役割を果たしてきたかを、時間軸（経済発展）と空間軸（地域経済）の観点から考えます。
授業の進め方	サブテーマを設け、テーマごとに講義を行います。
達成目標	(1) 経済政策がなぜ行われる必要があるのかを理解できる。 (2) 経済における市場と政府の役割の違いを理解できる。 (3) 経済政策の現代的課題について理解できる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 インTRODクシヨN 経済政策とは？</p> <p>第2回 経済政策論の基礎 1 政府と企業 第3回 経済政策論の基礎 2 市場経済における政府の役割 第4回 経済政策論の基礎 3 大きな政府と小さな政府 第5回 経済政策論の基礎 4 景気対策と経済成長</p> <p>第6回 日本の経済発展と経済政策 1 幕末と明治初期の経済的背景 第7回 日本の経済発展と経済政策 2 明治以降の経済発展と政策 第8回 日本の経済発展と経済政策 3 戦後復興と高度経済成長 第9回 日本の経済発展と経済政策 4 現代経済と発展の意味</p> <p>第10回 地域経済と経済政策 1 地域政策とは？ 第11回 地域経済と経済政策 2 日本の経済発展と地域経済 第12回 地域経済と経済政策 3 地域経済とアジア経済の関係 第13回 地域経済と経済政策 4 地域の経済発展と政策の意味</p> <p>第14回 現代経済政策の課題 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	経済政策は私たちの生活のいろいろなところに関係しています。日頃から、新聞などを通じて、経済に関係ある事柄について関心を持つようにして下さい。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
成績評価方法	授業中に実施するレポート（20%）と期末レポート(80%)を成績評価の対象とします。全体で60%以上のポイントを獲得した受講生に単位を認定します。

科目名	地域経済論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0505.9	担当教員	宇都宮 千穂	所属	高知県立大学文化学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近年、経済のグローバル化の影響を受けて、地域経済は大きく変化しています。そして、地域は、様々な課題を抱えています。 本講義では、まず、どのように地域経済が形成されるのかを明らかにし、それをもとに地域問題の要因をさぐります。そして、その分析結果から、地域問題の解決方法について考えていきたいと思えます。それぞれについて、具体的な地域を事例に、解説していきます。
授業の進め方	基本は、講義形式で行いますが、基本文献（日本語あるいは英語）、資料を用いて、地域分析をします。可能であればグループディスカッション（回数未定）も行います。
達成目標	(1) 地域経済の分析視角（とらえかた）を理解する (2) 地域問題を意識し、その発生メカニズムを理解する (3) 自らが生活する地域に興味を持ち、何が問題なのかを考えることができるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション (授業の進め方、試験について、地域経済の分析方法について、等) 第2～4回 都市はどのようにつくられるのか（新居浜市） 第5～8回 産業と地域経済 産業集積と都市（京都市） 企業誘致と地域経済（美濃加茂市） 第9～13回 生活と地域経済 公害問題と地域経済（四日市市） 内発的発展（南木曾町） 内部循環型経済と地域内再投資力（由布市湯布院、長野県栄村） 第14～15回 地域問題の分析方法（高知市旭）
履修上の注意	なし
教科書	なし
参考書	『国際化時代の地域経済学（第3版）』岡田知弘 川瀬光義 鈴木誠 富樫幸一、有斐閣（2007） 『京都経済の探究』岡田知弘編著、高菅出版（2006） 『地域再生学』湯浅良雄、崔英靖編著、晃洋書房（2011）
成績評価方法	地域分析結果の提出（回数未定 60点） レポート提出（中間と最終の2回 各20点）

科目名	経済学特殊講義（流通経済論）	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0510	担当教員	白水 盛博	所属	個人事業主(マーケティングコンサルタント)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、マーケティングの意義や役割について確認するとともに、マーケティングの基本理論を学習する。そのうえで、講義の後半は、現代のビジネスを大きく変化させているインターネット・IT技術を通じたマーケティングやビジネスモデルについて、豊富な事例を通して学習する。
授業の進め方	各講義の前半は講義形式で行い、後半はグループワークとディスカッションを中心に進める。また、第13回、第14回では、受講生により、実際のマーケティングの事例について、プレゼンテーションを行ってもらう予定である。
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングの意義や役割を理解する。 2. マーケティングの基礎理論やコンセプトを習得する。 3. 現代のビジネスにおける最先端のマーケティング事例に関して理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション（授業の進め方や成績評価基準など） 第2回 マーケティングの誕生と基本的思想 第3回 マーケティングの基礎理論1（市場機会の発見） 第4回 マーケティングの基礎理論2（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング戦略） 第5回 マーケティングの基礎理論3（マーケティング・ミックス） 第6回 ブランド・マネジメント 第7回 マーケティング・マネジメント 第8回 サービス・マーケティング 第9回 産業材マーケティング 第10回 マーケティングの事例研究1（ICT・ソーシャルメディア） 第11回 マーケティングの事例研究2（炎上問題） 第12回 マーケティングの事例研究3（テキストマイニング） 第13回 事例研究発表1 第14回 事例研究発表2 第15回 総括
履修上の注意	特になし
教科書	
参考書	講義に必要な資料は講義開始時に配布する。 参考図書は講義時間内に紹介する。
成績評価方法	期末試験（60%）、講義への参加姿勢（40%）で総合的に評価する。

科目名	経済学特殊講義	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0512	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	地方創生が全国的な課題とされ、高知県でも取り組みが進んでいます。この授業では地方の抱える課題について理解を深め、対応する政策のあり方について考えていきます
授業の進め方	いくつかの文献を皆で読んでいく形で授業を進めます。 受講生によるレポートに基づき、受講生の間での議論を進めます。 開講時間など受講生の状況に応じて柔軟に設定します。
達成目標	(1) 地方創生が全国課題とされる背景、理由について理解を進める (2) 地方創生に向けた策枠組みについて理解を進める (3) 地方創生とはなにか、地方が目指す方向について理解を深める (4) 地方創生に向けて何が必要なのか、理解を深める (5) 希望者は論文作成にチャレンジする
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の文献から選択して学習していく。 増田寛也『地方消滅 - 東京一極集中が招く人口急減』(中公新書) 増田寛也・富山和彦その他『地方消滅 創生戦略篇』(中公新書) 小田切徳美『農山村は消滅しない』(岩波新書) 岡田知弘『「自治体消滅」論を超えて』(自治体研究社)
履修上の注意	受講生の積極的な参加が不可欠です
教科書	上記の文献
参考書	適宜紹介します。
成績評価方法	受講生によるレポートと授業で参加状況をもとに総合的に評価します。

科目名	経済学特殊講義	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0545.5	担当教員	守友 裕一	所属	福島大学経済経営学類
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	地域・被災地の再生と内発的発展論
授業の進め方	講義を中心に進めます。
達成目標	(1) 地域づくりの歴史を理解できるようになる。 (2) 地域、被災地の抱えている課題を理解できるようになる。 (3) 内発的発展論の概要を理解できるようになる。 (4) 地域再生の方向性について理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1～3回 地域づくりの歴史 第4～5回 現在地域が抱えている問題 第6～7回 現在災害被災地が抱えている問題 第8～9回 地域、被災地が課題解決のために取り組んでいる事例の検討 第10～13回 内発的発展論の形成と展開 第14～15回 地域再生の方向性
履修上の注意	自分の生まれ育った地域や現在すんでいる地域の課題やその解決の方向性を頭に置いて授業に臨んでください。
教科書	特にありません。資料を配付いたします。
参考書	関心のある方は次の書籍をみてください。守友裕一『内発的発展の道』（農山漁村文化協会）、守友裕一編『福島 農からの日本再生』（農山漁村文化協会）
成績評価方法	基本的に全授業終了後のレポートによります（70％）。なお出席点も加味します（30％）。

科目名	労働経済論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0550	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7189 (研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	働くということについて、経済学的に考える力を養う。
授業の進め方	教科書を読みながら進める。その中で理解を深めるため、質疑応答を行う。また、章末問題演習も行う。
達成目標	(1) 効率化と格差是正について、考えることができるようになる。 (2) 労働を、経済学的にはどう考えればいいのかを、理解できるようになる。 (3) 賃金の違いの原因を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 第2回 勤労所得と差別1：近郊賃金の決定要因 (教科書第19章) 第3回 勤労所得と差別2：差別の経済学 (同上) 第4回 勤労所得と差別3：演習1 (同上) 第5回 勤労所得と差別4：演習2 (同上) 第6回 所得の分配1：不平等の尺度 (教科書第20章) 第7回 所得の分配2：貧困を減らすための政策 (同上) 第8回 所得の分配3：演習1 (同上) 第9回 所得の分配4：演習2 (同上) 第10回 生産要素市場1：労働需要と市場均衡 (教科書第18章) 第11回 生産要素市場2：他の生産要素 (同上) 第12回 生産要素市場3：演習1 (同上) 第13回 生産要素市場4：演習2 (同上) 第14回 生産要素市場5：演習3 (同上) 第15回 おわりに
履修上の注意	「経済学」を履修済みであれば望ましい。
教科書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年)第18～20章
参考書	
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(50%)、受講態度(50%)を加味して評価する。ただし、学生の演習の取り組み具合等によって、評価方法を変えることがある。

科目名	経営学	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0670	担当教員	青木 宏之	所属	香川大学経済学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業は経営学の基本的な概念や理論を幅広く解説する。第一に、経営学説を取り上げる。第二に、企業の設立形態、支配構造、企業間関係などの企業論の基本を学ぶ。第三に、経営戦略論とマーケティングを取り上げ、企業と市場の関係について解説する。最後に、技術経営の基礎理論や主要産業の生産システムについて学ぶ。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	到達目標は下記の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・組織と労働者との緊張関係を経営学の視点から捉えることができる。 ・企業の形態と支配構造について説明することができる。 ・企業の市場に対する働きかけや事業領域の選択行動などを経営学の視点から説明することができる。 ・産業の技術的条件が経営管理に与える影響を説明することができる。
授業計画 (講義の具体的内容)	【授業計画】 第1回 イントロダクション 第2回 科学的管理法 第3回 人間関係学派と組織行動論 第4回 企業形態とコーポレートガバナンス 第5回 企業間関係論 第6回 企業集団と系列 第7回 全社戦略 第8回 競争戦略(1)市場におけるポジショニング 第9回 競争戦略(2)リソースベースビュー 第10回 マーケティング 第11回 製品アーキテクチャ 第12回 製品開発パターン 第13回 生産システム論 第14回 サービス産業の現場管理 第15回 講義のまとめ
履修上の注意	経営学 と関連深い講義である。
教科書	特になし。
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	学期末レポート(70%)、小テストやグループワークなどの平常点(30%)等で成績評価を行う。

科目名	企業分析論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0691	担当教員	梶原 太一	所属	高知県立大学文化学部	
連絡先	電話					088-821-7187 (研究室)
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>企業が公表している財務諸表（決算書）を様々な角度から眺めて、企業の過去・現在・未来の状況を分析する方法について学びます。</p> <p>現代では、株式会社を代表とする営利企業だけではなく、病院や学校、NPOといった非営利組織、あるいは自治体などの政府組織でも、営利企業と同様の方法で財務諸表が作成され、公表されるようになってきました。これらの組織の活動の役割や意義を理解しようとする際にも、財務諸表分析の考え方が役立つでしょう。</p>
授業の進め方	<p>まず、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書といった財務諸表が、企業の経済活動をどのように表現したものであるのかを解説します。次に、財務諸表の数値を利用して、企業の「安全性」「収益性」「活動性」「成長性」などの側面を分析する財務指標の計算方法と、その意味を解説します。また、企業の実力の総合的な判定を簡単に行うために開発された「企業力指数」の考え方を紹介し、その意義と使いみちを解説します。</p> <p>毎回、様々な企業を取り上げ、各種財務指標の解説を行い、その後、みなさんに実際に計算してもらいますので、学びつつ実践することで、理解を深めてください。</p>
達成目標	<p>(1) 財務諸表に表れた数値がどういう意味を持ち、どのように活用できるのかを理解すること。</p> <p>(2) 企業の「安全性」「収益性」「活動性」「成長性」などを分析する手法を身に付けること。</p> <p>(3) 「損益分岐点」の意味を理解し、計算ができるようになること。</p> <p>(4) 「企業力指数」の意味を理解し、企業の総合力を判定できるようになること。</p> <p>(5) この授業の内容を理解しようとすることをきっかけとして、企業の経営状況を読み解くことのできる能力を身につけ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 講義の内容解説</p> <p>第2回 企業内容開示制度</p> <p>第3回 貸借対照表</p> <p>第4回 損益計算書</p> <p>第5回 キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第6回 株主資本等変動計算書</p> <p>第7回 安全性分析</p> <p>第8回 収益性分析</p> <p>第9回 活動性分析</p> <p>第10回 成長性分析</p> <p>第11回 業種分析</p> <p>第12回 損益分岐点分析</p> <p>第13回 粉飾決算の分析</p> <p>第14回 企業力指数</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。財務諸表分析の極意は、各種数値の比率分析（割り算）にあります。したがって、電卓などの計算機を持参すると大変便利です。</p>
教科書	<p>教員の執筆した講義資料を配布します。</p>
参考書	<p>『新版 財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一著、BKC（2015年）。</p> <p>『財務諸表分析[第6版]』桜井久勝著、中央経済社（2015年）。</p>
成績評価方法	<p>『財務諸表分析[第2版]』乙政正太著、同文館出版（2014年）。</p> <p>毎回の授業内容の要約課題（25%）、中間試験（20%）、期末試験（60%）。</p> <p>『Financial Statement Analysis(11th ed.)』Subramanyam and Wild著、McGraw-Hill（2013年）。</p>

科目名	企業分析論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0692	担当教員	梶原 太一	所属	高知県立大学文化学部	
連絡先	電話					088-821-7187 (研究室)
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	「企業価値」を評価していくための手法を学びます。これらの手法は「企業分析論」で取り扱った財務諸表分析とは別に、「Valuation」(企業価値評価)と呼ばれる一つの独立した分野となっています。企業価値評価の具体的な手法の多くは、株式市場における企業の理論上の株価を算定するために考え出されたものです。たとえば、理論株価としての企業価値を算定することができると、それを現実の株価と比べて、割安か割高かの判断を行うことが可能になります。さらに、企業買収や合併のように企業を売買する場面に限られず、世の中に存在する何かしらの価値を持つ「モノ」を評価する場面においても、Valuationの考え方は役立つものとなるでしょう。
授業の進め方	まず、株式時価総額やPBR、PERなど「株価指標」と呼ばれる数値について解説します。次に、企業価値評価における最重要用語である「現在価値」と「資本コスト」の考え方について説明します。その後、3つの代表的な企業価値評価モデルについて解説します。 企業価値評価を行うには、証券市場が社会の中でどのような機能をもつ制度であるのかということと、そこに参加する投資家がどのような心理のもとで行動しているのかということを理解しておくことが有益ですので、投資家の心理を研究対象とした行動ファイナンスの議論も併せて取り上げます。
達成目標	(1) PBRやPERなどの株価指標の意味を理解し、計算ができるようになること。 (2) 「現在価値」と「資本コスト」の意味を理解し、説明ができるようになること。 (3) 代表的な企業価値評価モデルの考え方を理解し、算定ができるようになること。 (4) 残余利益の考え方を理解し、それを経営指標として応用したEVA(経済付加価値)の計算ができるようになること。 (5) 証券市場が世の中で果たす役割と投資家の心理が理解できるようになること。 (6) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、企業の経営状況と経済状況を読み解くことのできる能力をみがき、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 講義の内容解説 第2回 株式時価総額 第3回 株価簿価倍率(PBR)と株価利益倍率(PER) 第4回 株価倍率モデルによる企業価値評価 第5回 割引現在価値 第6回 利子率と不確実性 第7回 資本コスト 第8回 負債コストの推定 第9回 株主資本コストの推定 第10回 割引キャッシュ・フローモデル 第11回 割引配当モデル 第12回 割引残余利益モデル 第13回 EVA(経済付加価値)とプロフォーマ利益 第14回 行動ファイナンス 第15回 まとめ
履修上の注意	前提となる知識は必要ありません。「企業分析論」と教科書は共通ですが、内容は独立していますので「企業分析論」を履修していなくてもかまいません。企業価値評価の極意は、複利計算(べき乗)にあります。したがって、電卓などの計算機を持参すると大変便利です。
教科書	教員の執筆した資料を配布します。
参考書	『新訂版 財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一著、BKC(2015年)。 『Financial Statement Analysis(11th ed.)』Subramanyam and Wild著、McGraw-Hill(2013年)。 『はじめての企業価値評価』砂川伸幸・笠原真人著、日経文庫(2015年)。
成績評価方法	『新・企業価値評価』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社(2014年)。 『財務諸表分析[第6版]』桜井久勝著、中央経済社(2015年)。 『財務諸表分析[第2版]』乙政正太著、同文館出版(2014年)。 『企業分析入門(第2版)』Palepu他著(斎藤静樹監訳)、東京大学出版会(2001年)。 『証券アナリストのための企業分析[第4版]』日本証券アナリスト協会編、東洋経済新報社(2013年)。 『ウォール街のランタム・ウォーカー-[第10版]』Malkiel著(井手正介訳)、日本経済新聞出版社(2011年)。

科目名	会計学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0700	担当教員	梶原 太一	所属	高知県立大学文化学部	
連絡先	電話					088-821-7187 (研究室)
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>会計の基礎的な考え方と、社会における会計の役割を解説します。会計は、企業が行った経済活動を独自の言葉で描き直し、それを関係者に報告する行為です。世の中の資源を効率的に活用し、透明性を高めていくための仕組みとして、会計は現代の社会において重要な役割を与えられています。</p> <p>この講義では、企業が社会からお金を調達し、その使いみちを社会に向けて報告する場面で行われる「財務会計」(Financial Accounting)の考え方を解説していきます。</p>
授業の進め方	<p>この授業では、まず、世の中における会計のはたらきを学びます。加えて、会計で用いられている独特の言葉である「資産」「負債」「資本」「収益」「費用」「利益」が、いったい何を表そうとしているのかを学びます。</p> <p>次いで、会計を行う上での考え方をまとめた「企業会計原則」について解説します。「企業会計原則」は、「発生主義」「取得原価」「費用配分」といった独特の発想に基づく会計処理ルールですが、これらは、経済活動を分かりやすく表現しようとする場合に必要となる「理論的なしかけ」としての役割を果たしています。</p> <p>今日では会計基準の改廃と新設が相次いでおり、また政府や自治体などの公的部門や非営利組織にも財務会計の考え方が導入されてきています。会計の仕組みを学ぶことで、それらの変化が持つ意味も理解できるでしょう。</p>
達成目標	<p>(1) 「発生主義」(accrual basis)の考え方を理解すること。</p> <p>(2) ある出来事が起こったとき、その出来事が会計ではどのように表現されるのかを想像できるようになること。</p> <p>(3) 会計は企業の経済活動を対象としているため、会計学の基礎を理解しようと努めることで、経営全般の基礎知識についても自然と習得することができます。</p> <p>(4) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 講義の内容解説</p> <p>第2回 会計の機能</p> <p>第3回 会計の構造</p> <p>第4回 財務諸表の構成要素</p> <p>第5回 発生主義会計</p> <p>第6回 動態論と静態論</p> <p>第7回 企業会計原則</p> <p>第8回 複式簿記</p> <p>第9回 決算</p> <p>第10回 財務諸表監査</p> <p>第11回 連結財務諸表</p> <p>第12回 税務会計</p> <p>第13回 管理会計</p> <p>第14回 国際財務報告基準(IFRS)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。簿記の知識があると会計の理解はあっというまですが、講義の中で、複式簿記の仕組みについても手ほどきを行います。会計は経済活動の数量的な把握という性格をもっているため、しばしば計算が必要となります。したがって、電卓などの計算機を持参すると便利です。</p>
教科書	<p>教員の執筆した講義資料を配布します。</p>
参考書	<p>『簿記学』矢部孝太郎編著、梶原太一ほか著、税務経理協会(2016年)。</p> <p>『会計学講義[第4版]』醍醐聰著、東京大学出版会(2008年)。</p> <p>『入門財務会計』藤井秀樹著、中央経済社(2015年)。</p>
成績評価方法	<p>『財務会計講義[第17版]』桜井久勝著、中央経済社(2016年)。</p> <p>『財務会計の理論と実証』William R. Scott著(太田康広・椎葉淳・西谷順平訳)、中央経済社(2008年)。</p> <p>毎回の授業内容の理解課題(20%)、中間試験(20%)、期末試験(60%)。</p>

科目名	経営情報システム論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0761	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	色々なアプリケーションを使用して、経営情報等に関するデータの収集・整理・分析・発表をします。
授業の進め方	情報処理実習室内における講義と実習。
達成目標	(1) インターネットから、検索してデータの収集が出来る。 (2) Excelで、データの分析が出来る。 (3) PowerPointで、分析結果を発表する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 Windowsの操作 第3回 インターネットの基礎 第4回 インターネットでのデータの収集をする 第5回 Excelの基礎 第6回 セルの書式・計算式 第7回 関数 第8回 データの整理 第9回 データの分析 第10回 データのグラフ化 第11回 画像の処理 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーション・テーマの変更 第15回 まとめ
履修上の注意	2010年度以前の「経営情報システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 文字入力とマウス操作が出来る方を対象とします。 自分データを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。
教科書	授業前にプリントを配布します。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	経済学特殊講義（経済地理学）	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0769	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7195（研究室）
	E-mail					ikeya@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	現実の経済活動は空間的広がりを持っています。また、都市・農村、中心・辺境と言った地域差・格差を内包しています。こうした経済活動の空間的広がり・地域差を対象とする経済地理学の理論を学び、現実の展開事例を精査し、地域経済の問題点を分析し、地域振興の方向性を考える基礎力を養います
授業の進め方	主に講義形式で進めますが、内容によりプロジェクター、ビデオ等を利用し、討論・ワークショップなど双方向の授業を取り入れます。また、受講生の希望や人数等により、ゼミ的な形式の授業を行う可能性もあります。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 農業立地論を理解できるようになる。 (2) 輸送圏芸や都市内農業について考えることができる。 (3) 工業立地論と輸送費について理解できるようになる。 (4) グローバル化と産業空洞化の初歩について理解できるようになる。 (5) 都市の立地について理解できるようになる。 (6) 地域産業の存立条件について理解できるようになる。 (7) 地域産業活性化の方策について考え、議論できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>概ね以下の内容で行う予定です。ただし、受講生の希望、社会情勢の動向等により順序や内容を一部変更する可能性もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 農業立地の理論 第3回 現代の農業立地と輸送圏芸 第4回 都市農業と定期市（ストール） 第5回 工業立地の理論 第6回 輸送費フリーと産業空洞化 第7回 都市の立地論 第8回 商業の立地論 第9回 B・NB分析 第10回 グローバル化とプロダクト・サイクル論 第11回 マクドナルド化とガラバゴス化 第12回 大規模工業化と地域（四日市の例等） 第13回 地場産業と地域（伊賀組紐の例等） 第14回 地場産業と地域（土佐打刃物の例等） 第15回 地域経済活性化について（まとめの討論）
履修上の注意	2014年度の経済学特講、2015年度の経済学特講を履修した学生は本講義を履修することはできません。新聞、ニュース等で社会経済の課題を知り、アルバイトや日常生活（買物・料理含）を通じ、地域や産業の実態に触れ、学びにつなげていきましょう。
教科書	レジュメと資料を配布する予定です。
参考書	『地域と産業－経済地理学の基礎』富田和暁著、原書房（2006年）、『多国籍企業の立地と世界経済』鈴木洋太郎著、原書房（2004年）、『ガラバゴス化する日本』吉川尚宏著、講談社（2010年）、『東海の伝統工芸』伊藤喜栄編著、中日新聞本社（1985年）、日本や世界の地図・統計等。その他、講義中に適宜紹介します。
成績評価方法	レポート（80％）と課題提出・討論等講義への参加姿勢（20％）などから総合的に評価します。

科目名	政治学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0770	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7188
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	この講義では、代議制(代表制)民主主義を検討します。
授業の進め方	第2回から第15回まで、授業計画に示した箇所を熟読し、A4用紙1枚にまとめて提出してください。そのペーパーをもとに議論を中心に進めます。詳細はオリエンテーションで説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って現在の政治を理解し、説明できるようになる。 (2) 日本の代議制(代表制)民主主義を理解する。 (3) 代議制(代表制)民主主義の理論や思想を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 『民主主義の条件』: 序章&第1部 第3回 『民主主義の条件』: 第2部 第4回 『民主主義の条件』: 第3部 第5回 『民主主義の条件』: 第4部 第6回 『民主主義の条件』: 選挙制度改革 第7回 『代議制民主主義』: 序章&第1章 第8回 『代議制民主主義』: 第2章 第9回 『代議制民主主義』: 第3章 第10回 『代議制民主主義』: 第4章 第11回 『代議制民主主義』: 終章 第12回 『代表制という思想』: 序章&第1章 第13回 『代表制という思想』: 第2章 第14回 『代表制という思想』: 第3章 第15回 『代表制という思想』: 第4章&終章
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく片方だけの受講でもかまいません。教科書(計3冊)は、第1回から使用しますので、必ず持参してください。第1回目で持参していない場合は、受講を認めません。受講人数が不明のため、生協の教科書として扱うことは難しいので生協の教科書コーナーでは購入できません。生協、書店、インターネットなどで授業開始までに各自注文し購入してください。
教科書	砂原庸介『民主主義の条件』(東洋経済新報社、2015年)、待鳥聡史『代議制民主主義: 「民意」と「政治家」を問い直す』(中央公論新社、2015年)、早川誠『代表制という思想』(風行社、2014年)。
参考書	特にありません。
成績評価方法	提出したペーパー(計14回)で評価します(100%)。5回提出がない場合、成績評価はしません。

科目名	政治学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0771	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7188
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	この講義では、日本政治の変化について検討します。
授業の進め方	第2回から第15回まで、授業計画に示した箇所を熟読し、A4用紙1枚にまとめて提出してください。そのペーパーをもとに議論を中心に進めます。詳細はオリエンテーションで説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って現在の政治を理解し、説明できるようになる。 (2) 日本政治の変化を理解する。 (3) 日本政治の変化を説明する理論を理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 『日本政治の大転換』：第1章 第3回 『日本政治の大転換』：第2章 第4回 『日本政治の大転換』：第3章 第5回 『日本政治の大転換』：第4章 第6回 『日本政治の大転換』：第5章 第7回 『日本政治の大転換』：第6章 第8回 『日本政治の大転換』：第7章 第9回 『日本政治の大転換』：第8章 第10回 『日本政治の大転換』：第9章 第11回 『現代日本の政党デモクラシー』序章 第12回 『現代日本の政党デモクラシー』第1章 第13回 『現代日本の政党デモクラシー』第2章 第14回 『現代日本の政党デモクラシー』第3章 第15回 『現代日本の政党デモクラシー』第4章&終章
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく片方だけの受講でもかまいません。教科書(計2冊)は、第1回から使用しますので、かならず持参してください。第1回目で持参していない場合は、受講を認めません。受講人数が不明のため、生協の教科書として扱うことは難しいので生協の教科書コーナーでは購入できません。生協、書店、インターネットなどで授業開始までに各自注文し購入してください。
教科書	フランシス・ローゼンブラス他『日本政治の大転換：「鉄とコメの同盟」から日本型自由主義へ』(勁草書房、2012年)、中北浩爾『現代日本の政党デモクラシー』(岩波書店、2012年)。
参考書	特にありません。
成績評価方法	提出したペーパー(計14回)で評価します(100%)。5回提出がない場合、成績評価はしません。

科目名	政治史	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0781	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7188
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	この講義では、日本の近現代の政治について検討します。
授業の進め方	第2回から第15回まで、授業計画に示した箇所を熟読し、A4用紙1枚にまとめて提出してください。そのペーパーをもとに議論を中心に進めます。詳細はオリエンテーションで説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って日本の近現代の政治を説明できるようになる。 (2) 日本の近現代の政治を理解する。 (3) 歴史を踏まえて現在の日本の政治を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 『近現代日本を史料で読む』：序章&第1章 第3回 『近現代日本を史料で読む』：第2章 第4回 『近現代日本を史料で読む』：第3章 & 第5回 『近現代日本を史料で読む』：第3章 第6回 『近現代日本を史料で読む』：第4章 第7回 『近現代日本を史料で読む』：第4章 第8回 『近現代日本を史料で読む』：第5章 第9回 『近現代日本を史料で読む』：第5章 第10回 『知の格闘』：第1講 第11回 『知の格闘』：第2講 第12回 『知の格闘』：第3講 第13回 『知の格闘』：第4講 第14回 『知の格闘』：第5講 第15回 『知の格闘』：第6講
履修上の注意	政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく片方だけの受講でもかまいません。教科書(計2冊)は、第1回から使用しますので、かならず持参してください。第1回目まで持参していない場合は、受講を認めません。受講人数が不明のため、生協の教科書として扱うことは難しいので生協の教科書コーナーでは購入できません。生協、書店、インターネットなどで授業開始までに各自注文し購入してください。
教科書	御厨貴『近現代日本を史料で読む：「大久保利通日記」から「富田メモ」まで』(中央公論新社、2011年)、御厨貴『知の格闘：掟破りの政治学講義』(筑摩書房、2014年)。
参考書	特にありません。
成績評価方法	提出したペーパー(計14回)で評価します(100%)。5回提出がない場合、成績評価はしません。

科目名	歴史学	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0800	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近世史（およそ江戸時代）および近代初期史（主として幕末維新时期・明治前半史）に関わる比較的最近の研究動向を踏まえ、「鎖国」・「開国」・幕末維新时期・殖産興業期をめぐる研究史と国際関係上の歴史像再検討を試みます。その際できるだけ映像資料なども用いながら、主として東アジア史や近代世界システム論の新見解から見た幕末維新・日本近代化の歴史的諸条件・国際的契機に関する概説的講義を行う予定です。
授業の進め方	基本的には講義形式で、毎回印刷資料プリントを配布しながら近世初頭から明治20年代にかけてを扱います。初回に受講者の有無や規模に合わせ講義形式を検討しますが、できる限りビデオ教材を毎回10分2本程度を交えながら授業を展開する予定です。
達成目標	(1)実態から見た「鎖国」像の再検討を試み、その世界史的意義を理解する。 (2)「開国」をめぐる研究の新動向から幕末維新时期の歴史像を再構築する。 (3)日本の近代化を巡る国際的諸条件について理解を深め、明治憲法・伊藤博文再評価論についても触れてより多面的な明治史像構築を試みる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回(ガイダンス)受講希望者の有無やその人数規模に合わせて講義計画を紹介する。 第2回(序論)最新の中学校歴史教科書の検討から「鎖国」論・「開国」論を再検討。 第3回・第4回(第1章)実態から見た「鎖国」像の再検討--「四つの窓口」論 第5回・第6回(第2章)「開国」前夜の世界史的条件--加藤祐三『』 第7回・第8回(第3章)ペリー来航と東アジア世界--条約交渉開国と和親・通商二段階論 第9回・第10回(第4章)長州ファイブから見た幕末維新 第11回・第12回(第5章)遣欧派遣使節団から殖産興業政策へ--福沢諭吉と大久保・伊藤 第13回・第14回(第6章)明治憲法への道--伊藤博文再評価論の射程 第15回 展望--鉄道をめぐる近代化の特殊諸条件 試験は行わず、課題レポートあるいは一定課題テキスト（プリント配布）の分担報告を講義中盤で求め、学期末にそれを活用する。
履修上の注意	中学校社会科歴史的分野の最新教科書を確認した後で、高校日本史B履修程度の知識を前提とした大学2年生向けレベルの講義を行う予定です。
教科書	(参考文献・受講者は購入の必要なし)岩波新書・藤田覚『幕末から維新へ』シリーズ`日本近世史` 2015年5月800円、藤井譲治『戦国乱世から太平の世へ』同左、井上勝生『幕末・維新』同日本近現代史` 2006年、他
参考書	その他の参考文献や文献引用に関しては、講義中に適宜資料プリント配布する予定。
成績評価方法	学期末に向け課題レポートを課す予定。それによって評価する。ただし、状況によって変更もあり得る。

科目名	社会保障・福祉論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0810	担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部	
連絡先	電話					088-847-8741(研究室)
	E-mail					kiyopy@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、少子・高齢化の社会状況をふまえ、高齢者介護と児童福祉の制度内容を理解するとともに、施策の構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 社会保障の基本概念と体系、経済・財政との関係が理解できるようになる。 (2) 介護保険制度の導入背景と基本構造、制度改革の特徴について理解できるようになる。 (3) 少子化の背景と対応の基本的方向を学ぶ。 (4) 保育・児童虐待対策等の具体的な児童福祉制度の基本的構造と制度改革の特徴を理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 福祉・社会保障の基本概念 第2回 社会保障と経済・財政の基本的関係 第3回 社会保障の制度体系 第4回 高齢化をめぐる社会状況と介護問題 第5回 措置制度と介護保険 第6回 介護保険制度の基礎構造 第7回 近年の介護保険制度改革の動向 第8回 少子化をめぐる社会状況と要因 第9回 少子化対応への基本的方向 第10回 保育所制度の沿革と行財政構造 第11回 近年の保育所制度の動向 第12回 児童虐待の状況と要因 第13回 児童虐待をめぐる政策動向 第14回 児童諸手当の内容と改正動向 第15回 育児休業制度の内容と改正動向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	田中きよむ著『改訂版 少子高齢社会の社会保障論』（中央法規出版、2014年）；改訂版の方であるので注意すること、必携教科書であるので注意すること。
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験（80%）および出席状況・受講態度（20%）によって総合評価する。

科目名	社会保障・福祉論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0820	担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部	
連絡先	電話					088-847-8741(研究室)
	E-mail					kiyopy@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、年金・医療・障害者福祉の各分野に焦点を当て、その制度内容と構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキストと板書によって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 年金制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (2) 医療制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (3) 障害者福祉制度の構造と制度改革の内容を理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 年金保険制度の基本的しくみ1 第2回 年金保険制度の基本的しくみ2 第3回 年金制度改革の背景 第4回 年金制度改革の特徴 第5回 年金制度をめぐる今後の方向 第6回 医療保険制度の基本的しくみ1 第7回 医療保険制度の基本的しくみ2 第8回 医療制度改革の背景 第9回 医療制度改革の特徴 第10回 医療制度をめぐる今後の方向 第11回 障害の概念と障害者福祉の理念 第12回 社会福祉基礎構造改革の特徴 第13回 措置制度と支援費制度 第14回 障害者自立(総合)支援法の構造 第15回 障害者自立(総合)支援法の動向と今後の方向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	田中きよむ著『改訂版 少子高齢社会の社会保障論』(中央法規出版、2014年);改訂版の方であるので注意すること、必携教科書であるので注意すること。
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験(80%)および出席状況・受講態度(20%)によって総合評価する。

科目名	地方自治論	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0850	担当教員	秦 正樹	所属	関西大学法学研究所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、「地方自治」の概念の理解に加えて、その実状について検討を加える。テレビや新聞などでは、よく国レベル(国政)について報道される一方で、地方レベル(地方政治)に関する報道はさほど多くはない。しかし、私たちの生活に関わる政策決定の多くは地方政府の決定に委ねられている。そこで本講義では、国政と地方政府の制度的・組織的な相違点を理解し、またその理念がどこまで市民生活に影響を与えているのかとの観点より授業を進める。
授業の進め方	トピックごとにレジュメを配布し、それを用いた講義形式で授業を進めていく。ただし、第13-15回は授業計画にあるテーマにもとづいてディスカッションを行う。ここでは、ぜひ受講生の積極的な発言を求める。
達成目標	(1)国政と地方政治の役割や性格の違いを理解し、地方自治に関する基礎知識を獲得すること (2)地方政府の意思決定に対して、一般の市民はどの程度、どのように関わりを有するかを理解すること
授業計画 (講義の具体的な内容)	各講義のテーマや項目は以下の通りである。 ただし進捗状況などから、適宜、内容を変更する場合がある。 第1回 イントロダクション：講義の進め方、注意事項など 第2回 なぜ地方自治が重要なのか？ 第3回 国と地方の意思決定(1)：制度や枠組みの相違点について 第4回 国と地方の意思決定(2)：政党組織と執政制度の相違点について 第5回 国と地方の意思決定(3)：市民からみた国と地方の違いについて 第6回 地方自治における市民の役割(1)：投票行動の一般理論 第7回 地方自治における市民の役割(2)：住民は地方政治をどのように意識するのか 第8回 地方自治における市民の役割(3)：国政選挙と地方選挙での「一票」の違い 第9回 政策決定に与える住民の意志(1)：政治参加の一般理論 第10回 政策決定に与える住民の意志(2)：住民による抗議(デモ)の有効性 第11回 政策決定に与える住民の意志(3)：住民投票は「意志表明」となりうるか 第12回 政策決定に与える住民の意志(4)：ソーシャルキャピタルと市民社会の活性化 第13回 市民協働の形態(1)：若者はどこまで地域づくりに参加するべきか？(討論) 第14回 市民協働の形態(2)：若者はどこまで地域づくりに参加するべきか？(討論) 第15回 全体のディスカッションとまとめ
履修上の注意	地方自治論、あるいは地方自治論 の一方だけを受講することができる。
教科書	使用しない
参考書	講義時に紹介する
成績評価方法	試験(1回：100%)

科目名	行政学	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0862	担当教員	城戸 英樹	所属	京都女子大学現代社会学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	行政学の各論として、日本の官僚制に焦点をあてる。 日本の官僚制に対しては様々な評価が行われてきた。ややもすればネガティブな側面に注目が集まる日本の官僚像について、多様な視点から検討を行う。その中で、高度経済成長期から現在に至る官僚像がどのような変化を遂げてきたのかを理解する。
授業の進め方	高度経済成長期から現在に至る官僚像にかかわる新書や文庫をもとに、講義形式とゼミ形式の中間的な形で授業を進める。具体的には、テーマについて簡単に解説を行ったうえで参加者による討論を行う。さらに、授業を踏まえてそれぞれのテーマについて自分がどのように思うのかを授業内レポートとして提出してもらおう。少人数での授業を想定しているため、基本的には双方向で授業を進めたい。また、テーマに関する新書・文庫は事前に読んでおくことを前提に講義を進める。 取り上げる新書等は購入することが望ましいが、大学図書館、公立図書館などでも簡単に見つけることができる。いずれにせよ授業に持参すること。 最終試験は知識そのものを問うのではなく、本講義を通じて何を学んだのかを述べてもらう形式にする。
達成目標	(1) 社会生活において接することが多い行政活動の実態を、具体的な事例に即して学ぶ。 (2) 官僚制への理解を通じて、社会の出来事を多角的に理解し様々な視点から意見を述べられるようになる。 (3) 行政に対する理解を深め、日本の行政に対して自らの意見を論理的に述べられるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 イン트로ダクション 第2回 総論：日本の行政と官僚制 第3回 高度経済成長期から80年代までの官僚像：「官僚たちの夏」 第4回 高度経済成長期から80年代までの官僚像：「官僚たちの夏」 第5回 高度経済成長期から80年代までの官僚像：「官僚たちの夏」 第6回 高度経済成長期から80年代までの官僚像：まとめと授業内小レポート 第7回 90年代以降の官僚像：「財務官僚の出世と人事」 第8回 90年代以降の官僚像：「財務官僚の出世と人事」 第9回 90年代以降の官僚像：「財務官僚の出世と人事」 第10回 90年代以降の官僚像：まとめと授業内小レポート 第11回 現在の官僚像：「官僚制批判の論理と心理」 第12回 現在の官僚像：「官僚制批判の論理と心理」 第13回 現在の官僚像：「官僚制批判の論理と心理」 第14回 現在の官僚像：まとめと授業内小レポート 第15回 授業のまとめ
履修上の注意	前提として「行政学」を受講していることが望ましい。ただし、できるだけわかりやすい文献をもとに議論を進めるので、「行政学II」のみを受講することも構わない。
教科書	『官僚たちの夏』城山三郎著、新潮文庫(1980年)、『財務官僚の出世と人事』岸宣仁著、文春新書(2010年)、『官僚制批判の論理と心理』野口雅弘著、中公新書(2011年)。
参考書	『日本の行政』村松岐夫著、中公新書(1994年)。 これ以外は授業中に適宜紹介する。
成績評価方法	授業での議論への参加20%、授業内レポート45%(15%×3回)、最終試験35%によって評価する。

科目名	社会学	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0879	担当教員	遠山 茂樹	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「社会」を把握するためには、社会現象や背景にある因果関係などを「言葉」や「記号」にして表現する必要がある。「社会」を捉えて考えるためにも、社会学における基本的な「概念」を理解すると同時に、(各種)社会学が何を対象に、どのように「社会」を見てきたのかを学び、現代社会への理解を促進することを目的とする。
授業の進め方	授業は講義形式で行い、毎回こちらで準備したレジメを配布する。 授業中にも簡単な課題を与えることもある。 期末試験を実施する。
達成目標	(1) 社会学における基礎概念を理解する。 (2) 現代社会を批判的に見つめられるようになる。 (3) 社会的概念を応用して身の回りの「社会」を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	社会学は「社会」を研究する学問である。しかし「社会」という言葉には何でも含まれてしまうため、理解しにくい。そこで前半は、社会全体について把握するための理論社会学の基本的概念を学習することで曖昧で捉えにくい「社会」を掴まえ、社会現象や社会の仕組み、集団や人間関係などについて理解を深めていく。 後半は、多くの専門領域をもつ社会学の中から私たちの生活に身近であろう家族、ジェンダー、福祉、都市、消費、メディア・情報などを取り上げ、各々の特定領域の社会研究において何を問題としているかを理解することで、現代社会を社会学の視点から考察できるよう学んでゆく。 授業計画としては以下の内容を予定している。 第1回 オリエンテーション<社会学とは> 第2回 行為論 第3回 相互作用論 第4回 集団論 第5回 社会の構造 第6回 全体社会 第7回 国家、エスニシティ、グローバル化 第8回 社会変動 第9回 家族社会学 第10回 ジェンダーの社会学 第11回 福祉の社会学 第12回 都市社会学 第13回 消費社会論 第14回 ネットワーク社会論 第15回 まとめ
履修上の注意	社会学 を履修していなくてもよい。
教科書	特になし (こちらで用意した資料を配布する)
参考書	『社会学小辞典 新版増補版』濱嶋朗ほか編、有斐閣(2005年) 『社会学がわかる事典』森下伸也著、日本実業出版社(2000年)
成績評価方法	2/3以上の出席を期末試験受験資格とする。 成績評価は、期末試験(70%)および講義中の課題(30%)などから総合的に評価する。

科目名	ジェンダー論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0890	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7195
	E-mail					ikeya@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	「ジェンダー」とは何か、なぜ、今、「男女共同参画」が謳われるのか、について論じます。歴史を垣間見、現代の労働現場に立ち入り、「ジェンダー」の意味と含蓄を明らかにしながら、偏見や先入観にとらわれない社会の在り方を一緒に考えたいと思います。少子化や貧困の問題についても取り上げます。本講義は現代社会において欠落しがちな重要な視角を学ぶことを通し、受講者の社会的及び職業的自立を支援することを目指します。
授業の進め方	プリント等配布資料や画像を使い、主として講義形式で授業を行います。適宜、小テーマで意見交換やグループ討議を行います。毎回、コメント用紙を配布しますので、意見や疑問等に利用してください。受講生の希望や人数により一部にゼミ的な形式を取り入れる可能性もあります。
達成目標	(1) ジェンダーの意味内容を理解できるようになる。 (2) 人類史とジェンダー概念の変容の概略を知る。 (3) 就業や社会保障におけるジェンダー・ギャップの実態を知る。 (4) 文化・教育におけるジェンダー・バイアスを知る。 (5) セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスの実態と背景を知り、その予防や防止につなげることができるようになる。 (6) ジェンダーの視点を身につけ、社会人、職業人としての基礎的教養とする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 ジェンダーとは？(オリエンテーション) 第2回 歴史にみるジェンダー 第3回 (1)西洋の場合 第4回 (2)日本の場合 第5回 仕事、就業とジェンダー 第6回 (1)男女賃金格差の実態と背景 第7回 (2)間接差別とガラスの天井 第8回 社会保障とジェンダー 第9回 (1)制度設計のジェンダー・バイアス (2)年金とジェンダー 第10回 育児とジェンダー 第11回 (1)国際比較 (2)保育・育児休業と子育て支援 第12回 教育とジェンダー 第13回 メディア・文化とジェンダー 第14回 セクシャルハラスメント、ドメスティックバイオレンスとジェンダー 第15回 今後の社会とジェンダー(授業のまとめ・討論) 概ね以上のように計画していますが、学生の興味関心、社会情勢等により多少の変更がなされる可能性があります。
履修上の注意	日常生活や日頃の意識と密接に関わるテーマです。批判的に聴講し、積極的に意見を発表し、自由に議論をたたかわせてほしいと希望します。新聞、雑誌、ウェブ上でも再々議論が行われますのでチェックするようにして下さい。
教科書	授業時にはプリントを用意します。適宜、プロジェクターにより画像や写真等を映し理解を深めるようにします。
参考書	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、ミネルヴァ書房(2013年)、『仕事と家族』筒井淳也著、中央公論新社(2015年)、『男性の育児休業』佐藤博樹・武石恵美子著、中央公論新社(2004年)、『働く女性の運命』濱口桂一郎著、文芸春秋(2015年)、『戦争がつくる女性像』若桑みどり著、筑摩書房(2000年)、『岩波女性学事典』井上穂子他編著、岩波書店(2002年)、『男女共同参画統計データブック2015』男女共同参画統計研究会編、ぎょうせい(2015年)、その他、授業時に適宜紹介します。
成績評価方法	

科目名	歴史学特殊講義（地域史）	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0900	担当教員	公文 豪	所属	高知市立自由民権記念館
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	講義テーマ：「植木枝盛の思想と生涯」 自由民権運動の理論的指導者・植木枝盛は、近代日本が生んだ最高の政治思想家として高い評価を得ている。彼は平易な文体で民主主義の神髄を当時の民衆に解き明かすことを心がけ、おびたしい論文、著作を残して36年の短い生涯を閉じた。幅広い読書と深い思索から紡ぎ出された独自の思想を素材に、現在、私たちが直面する民主主義の根本問題を考察する。
授業の進め方	毎回、レジュメと教科書に基づいて講義する。
達成目標	(1) 植木枝盛の自由民権思想とその生涯を理解する。 (2) 人類が到達した自由と人権思想の本質をつかむ。 (3) 日本における憲法と議会政治の成り立ちを理解する。 (4) 高知県の歴史について関心を高め、高知の歴史風土への愛着と誇りをつちかう。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 植木枝盛の生涯 第2回 植木枝盛の自由民権論 第3回 植木枝盛の地方自治論 第4回 植木枝盛の自由教育論 第5回 平和思想の系譜(1) 第6回 平和思想の系譜(2) 第7回 植木枝盛と女性参政権 第8回 植木枝盛の憲法構想 第9回 植木枝盛憲法草案と日本国憲法 第10回 実践家としての植木枝盛(酒屋会議など) 第11回 植木枝盛の社会改良論 第12回 植木枝盛の女権論(1) 第13回 植木枝盛の女権論(2) 第14回 植木枝盛と女たち 第15回 帝国憲法発布と植木枝盛
履修上の注意	2012年度以前の「地域史」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 出席をとります。教科書・参考書通読のこと。
教科書	プリント配付
参考書	『植木枝盛選集』家永三郎編、岩波文庫(2007年)(注意・この本は現在、絶版になっていますが、ネット上の「日本の古本屋」などを通じて古書を購入することが可能です) 『史跡ガイド・土佐の自由民権』公文豪著、高知新聞社(2013年)
成績評価方法	レポート提出。評価は、レポート90%、講義への参加姿勢10%。

科目名	現代社会特殊講義（環境論）	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0980	担当教員	北條正司・藤原憲一郎	所属	高知大学理学部(北條) 高知工業高等専門学校名譽教授(藤原)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>環境汚染、特に水質汚染の実態や仕組み、エネルギー争奪戦の実情を理解し、その中からどのような新しい仕組みが生まれ、世界的な温暖化規制を打ち出せるのだろうか。現状を分析しながら、世界的な環境問題解決を目指す模索を自然科学、および社会科学の視点から考える。</p> <p>エネルギーと環境に関しては、平成23年3月の福島第一原発事故を契機に、日本の電力需給と環境保全の両立が大きな課題となり、国民生活や政治のあり方にまで大きな影響を与えようとしている。後半の講義では、日本のエネルギー需給と経済発展を振り返りながら、今後のエネルギーと環境問題を考える。</p>
授業の進め方	<p>半期(15週)の講義であるが、前半を北條が担当し、後半を藤原が担当する。北條は教科書を使い、藤原は配布資料とスライドを使った講義になる。</p>
達成目標	<p>(1) 現在の大きな環境問題である温暖化防止や水質汚染問題に深い関心を持つ。</p> <p>(2) 経済発展とエネルギー・環境問題の過去と現状を理解し、今後のエネルギー問題に関して自分の考えをまとめることができる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>前半(北條担当)は、自然科学の立場から水質汚染および地球環境問題について講義する。 後半(藤原担当)は、福島原発事故と原子力エネルギーの問題点、日本や世界の新しいエネルギー政策と現状、地球温暖化への取り組みについて講義する。</p> <p>前半</p> <p>第1回 バイオエネルギー(アルコール発酵)の重要性 第2回 地球と水 第3回 水の循環と利用 第4回 産業排水による水質汚染 第5回 生活排水による水質汚染 第6回 水道水と健康について 第7回 地球温暖化のメカニズム</p> <p>後半</p> <p>第8回 日本の電力需給の推移と原子力発電 第9回 福島第一原発事故時の対応と過酷事故時の課題 第10回 福島第一原発事故の社会的影響と安全対策 第11回 核燃料サイクル問題と核廃棄物処理問題 第12回 化石燃料による発電方式の高効率化と環境への対応 第13回 代替エネルギーとしての再生可能エネルギーと課題 第14回 日本のエネルギー政策と省エネルギー対策 第15回 世界のエネルギー事情と地球環境問題</p>
履修上の注意	<p>2012年度以前の「環境論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。出席をとります。</p>
教科書	<p>前半：『酒と熟成の化学～響きあう水とアルコール』北條正司・能勢晶共著、光琳(2100円) 後半：講義資料を印刷し配布します</p>
参考書	<p>授業時にそれぞれ紹介します。</p>
成績評価方法	<p>成績評価は、前半と後半の平均点を基にします。 前半は受講態度(40%)、レポート(50%)と小テスト(10%)などを評価します。 後半は釘への参加姿勢(quizを含む、50%)とレポート(50%)にもとづき評価します。</p>

科目名	現代社会特殊講義（地域の諸問題）	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0990	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7195
	E-mail					ikeya@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>私たちの抱える問題には貧困、災害、格差拡大等地域に関わる問題が少なくない。こうした地域問題の実態や背景を明らかにし、改善の方策を考えていこうとするのが本講義の目的である。</p> <p>本講義では地域問題の中でも人間の生存と深く関わり、社会の原因でもあり結果でもあるとされる人口現象に注目し、近年その深刻さが浮き彫りとなってきた少子化問題を取り上げる。</p>
授業の進め方	<p>授業は講義を中心に行うが、概説や理論の説明ばかりでなく、地域の実例等の紹介をしながら、少子化の実態や背景を検討していく。適宜、授業で取り上げるテーマについて意見交換や討論を行い、少子化問題に関する論点を共有し、授業内容の理解を深めていく。受講生の希望・時間制約などを考慮しつつも状況が許せば受講生の興味関心に応じて課題を設定し、報告をし討論する機会を持ちたい。なお、授業は受講者数によって弾力的に運用する。</p>
達成目標	<p>(1) 世界と日本の少子化について概況を理解できるようになる。</p> <p>(2) 少子化の実態と背景に関し、基礎的事項を理解できるようになる。</p> <p>(3) 少子化の改善に向けての政策や論調を文化的な背景を含め理解し、改善に向けての議論を行うことができる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>概ね以下のように計画していますが、社会情勢の変化、受講生の意向、震度等により多少変更されることがあります。</p> <p>第1回 授業のガイダンス</p> <p>第2回 人口問題、少子化とは何か？</p> <p>第3回 人口問題の歴史と理論</p> <p>第4回 現代世界の人口問題</p> <p>第5回 ヨーロッパの少子化問題</p> <p>第6回 (1) イギリスの少子化と反転</p> <p>第7回 (2) 北欧の少子化とその対策</p> <p>第8回 (3) 南欧の少子化とその背景</p> <p>第9回 アジアの少子化問題</p> <p>第10回 (1) 韓国の少子化問題他</p> <p>第11回 (2) 日本の少子化の実態と背景 出生率高位地域の事例</p> <p>第12回 同上 出生率低位地域の事例</p> <p>第13回 国際比較：ヨーロッパ・アジアと日本の少子化を比較検討する</p> <p>第14回 国内比較：日本における出生率の地域差を比較検討する</p> <p>第15回 全体の総括</p>
履修上の注意	<p>新聞、テレビ等や雑誌等に掲載され、議論される機会が多いテーマです。そうした媒体に積極的に触れると共に、地域の実態や課題についても関心を持つよう期待します。</p>
教科書	<p>レジュメと資料を配布します。適宜、プロジェクターによる画像・資料提示等を行います。</p>
参考書	<p>『人口学への招待』河野桐果著、中央公論新社（2007年）、『現代人口学』阿藤誠著、日本評論社(2000年)、『フランスの出産奨励運動と教育』河合務著、日本評論社（2015年）、『少子化における地域差の要因』石井憲雄著、ブイツーソリューション（2013年）その他、授業中に適宜紹介します。</p>
成績評価方法	<p>授業後に提出いただくレポート（80％）と、授業への取り組み（課題提出・討論への参画等・・・20％）を基に総合的に算出します。</p>

科目名	現代社会論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G1000	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7195
	E-mail					ikeya@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	暮らしに関わる現代社会の問題を一緒に考えて見ませんか。 世界が直面している環境問題の現状は？ 就職が厳しいのはなぜ？ なぜ、非正規労働が多いのか？ 少子高齢化への対応は？ こうした問題の実態と解決の方向についてともに考えていきます。 生きていくこと、暮らすこと、働くことに関する諸問題を多面的に見ていく授業です。世界と日本の事例をヒントに今後のあり方を考えていきましょう。
授業の進め方	1.授業は、レジュメと資料により講義形式で行いますが、適宜、討論やワークショップを行い双方向授業を取り入れます。 2.テーマにより映像資料を使用します。 3.授業内でコメント作成を行います。 4.質疑を歓迎します。
達成目標	1.社会問題が自分の日常生活と密接に関連することを理解できるようになる。 2.社会問題の要因・背景を説明できる基礎力を要請する。 3.世界と日本の事例から、改善に向けての示唆、ヒントを得る力を養う。 4.今後の日本社会のあり方について自分なりの意見を持つことができるようになる。 5.講義を通じて、社会参加の重要性を認識し、社会の一員としての自覚を持つことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね下記のように考えていますが、社会状況、受講生の希望や人数、授業の進行状況などにより変更される場合があります。 第1回 概要説明：現代社会の抱える問題の多様性と私たちの日常生活、授業の進め方 第2回 地球環境問題の深刻化 第3回 (1) 地球温暖化とオゾン層破壊への取り組み 第4回 (2) 生物多様性とナショナルトラスト運動 第5回 情報化とグローバル化の進展 第6回 経済の空洞化と雇用環境の悪化 第7回 (1) 経済発展と企業の多国籍化・産業空洞化 第8回 (2) 非正規雇用の拡大とデーセント・ワーク 第9回 少子高齢化と人口減少 第10回 (1) 経済成長と長命化・少子化の進行 第11回 (2) 少子化の背景と社会政策・福祉 第12回 格差拡大とジェンダー・家族・福祉 第13回 (1) 貧困の連鎖と防止 (2) 子どもの貧困とヘッドスタート 第14回 限界集落と縮小都市 第15回 全体総括：今後の社会のあり方と私たちの関わり
履修上の注意	新聞、ニュース、雑誌、ウェブ等に積極的に触れ、報道される社会問題に関心を持ってほしいと思います。暮らしや仕事の現実の中に社会問題やその芽が潜んでいる可能性があります。現実の奥に潜む課題に気付く感性を育てていきましょう。
教科書	レジュメ、資料を配布し、テーマにより映像・画像資料を視聴します。
参考書	『環境科学入門』富田豊編 学術図書出版社(2006年)、『よくわかる社会政策 第2版 雇用と社会保障』石畑遼太郎等編著、ミネルヴァ書房(2014年)、『ルポ 生活保護』本田良一著、(2010年)、『現代社会と子どもの貧困』原信子・岩田美香・宮島喬編著、大月書店(2015年)、『新版 データで読む家族問題』湯沢雅彦・宮本みち子著、NHK出版(2008年)等。『限界集落と地方再生』木野昇著、高知新聞社(2008年)その他、授業で紹介いたします。
成績評価方法	レジュメと資料により講義形式で行いますが、適宜、討論やワークショップを行い双方向授業を取り入れます。授業内でコメント作成を行います。質疑を歓迎します。

科目名	高知学	単位数	2	期別	集中	
科目コード	H0908	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7195
	E-mail					ikeya@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	少子化、待機児童、児童虐待など子どもに関わる問題が噴出しています。貧困・格差が子どもの成長や将来に影を投げかけています。こうした現状の改善を目指し、民間や行政の取り組みが始まっています。保育王国と呼ばれた高知で、子どもの状態や子育て支援の取り組みはどうなっているのか、現場を訪問し、考えます。
授業の進め方	子どもの現状について全国と高知の動向を学び、併せ地元高知で展開されている様々な子育て支援の取り組み現場を訪問し、関係者から話をお聞きすること等により、多面的な角度から学びを深めていきます。子どもや次世代育成について、統計や資料から学ぶとともに、地域の実態をフィールドに降りて肌で知ろうとする授業です。
達成目標	1、子どもの置かれている状態について概要を把握できる。 2、子育て支援の取り組みやその実態について現状を把握できる。 3、子どもを取り巻く状況を踏まえ、課題を指摘することができる。 4、子どもとそれを取り巻く社会状況の中で主体的に取り組むべき課題を発見し、取り組む基礎力を養う。
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね以下のように考えていますが、訪問先との調整、学生の希望、交通事情等により順序その他について変更が生じることがあります。 第1回 講義 ガイダンス 授業の概要、スケジュール、現地調査時の注意事項、学生の抱負 第2回 講義 子どもの現状 第3回 講義 子育て支援の歩み 第4回 現地訪問 チャレンジ塾 第5回 現地訪問 子育て支援センター (1) 第6回 現地訪問 子育て支援センター (2) 第7回 現地訪問 ファミリー・サポート・センター 第8回 現地訪問 子育てサークル (1) 第9回 現地訪問 子育てサークル (2) 第10回 中間まとめ 意見交換、テーマ検討 第11回 講演 子育て支援に関わって 第12回 講演 子育て支援の課題 第13回 現地訪問 子ども図書館他 第14回 講演 第15回 成果発表会(討論含む)
履修上の注意	現地演習に関する昼食代は各自の負担となります(詳細後日)。学外フィールドワークが行われますので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入下さい。社会性のある服装を着用し筆記具・メモ等持参下さい。現地の方々の協力と支援で成立する授業です。感謝の気持ちを大切に行動し成果に結び付けるよう期待します。
教科書	レジュメ・資料を配布します。
参考書	前田正子(1997) 保育の多様化 『季刊・社会保障研究』 Vol.34, No.1 pp 14-25、池谷江理子(2016) 戦後における女性労働と保育、育児休業めぐって 『人間と教育』 12月号 、そのほか、適宜授業中に紹介します。
成績評価方法	講義・フィールドワークへの参加(40%)、取り組み姿勢・プロセス評価(10%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(10%)に基づき総合的に評価します。

科目名	外書講読	単位数	2	期別	後期
科目コード	H0990	担当教員	岩郷 浩二	所属	高知県立大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>英文を読むことにより、4年制大学の3年次編入に対応した英語力を身につけることを目指します。 TOEIC試験のための準備も行います。 英語を苦手に行っている人は日常よく使う表現を学びながら英語の基礎を身につけることをめざします。</p>
授業の進め方	<p>(1) 英訳をして語彙、文法、分かりやすい文章の表現などを学びます。 (2) 英語の原文と自分の書いた英文を比較して英語らしい表現を学びます。</p>
達成目標	<p>(1) 日常英語の語彙と表現を増やす。 (2) 文法を理解し意識せずに使えるようになる。 (3) 英文を書ける・読めるようになる。 (4) 英文を正しく発音出来るようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>以下の内容を予定していますが、受講生の要望を反映した教材を使い授業の進め方も変更する可能性があります。</p> <p>第1回 In the Morning (1) 第2回 In the Morning (2) 第3回 Commuting (1) 第4回 Commuting (2) 第5回 Working at the Office (1) 第6回 Working at the Office (2) 第7回 Housework (1) 第8回 Housework (2) 第9回 Shopping & Errands (1) 第10回 Shopping & Errands (2) 第11回 Eating out (1) 第12回 Eating out (2) 第13回 Leisure (1) 第14回 Leisure (2) 第15回 At Night</p>
履修上の注意	<p>習ったことをすぐ授業で使って練習してください。家でも復習が必要です。</p>
教科書	<p>『もっとやさしい起きてから寝るまで英語表現600』 著者: 辰巳 友昭, 遠山 道子 出版社: アルク</p>
参考書	<p>ISBN: 13-978-4757419001 辞書を必ず持参すること 受講生の希望を反映した教材を使用</p>
成績評価方法	<p>授業での演習(50%)、試験(50%)で評価します。</p>

科目名	キャリアデザイン	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1010	担当教員	新谷 茂	所属	キャリアコンサルタント
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	自分らしい生き方、働くことの意味を考え、自己への気づきを通して主体的なキャリア形成を図れるよう学びを深めてまいります。また、生涯に2～3回の転職は珍しくなくなってきました。就活や社会に出てから、適切な職業に就きキャリアを築くための自己理解・職業選択や履歴書の書き方、キャリアデザインなど実践的な指導をまいります。
授業の進め方	講義と演習形式の両方で進めます。自らキャリアを選択し形成するために、個々人のキャリアを取り巻く課題の解決に向けて必要な知識・情報を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 働くことの意味や価値を理解する。 (2) 職業や労働環境について理解する。 (3) 自己理解を深めキャリアデザインのための機会を提供し、就職力を高め主体的にキャリアを形成する力を育成する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション、これからの働き方 第2回 職業の選択 第3回 自己理解 性格検査(エゴグラム) 第4回 自己理解 職業興味(職業レディネス) 第5回 履歴書の書き方、作成・指導 第6回 履歴書の書き方、作成・指導 第7回 面接対策・模擬面接・自己PR 第8回 キャリア理論 計画された偶発性 第9回 キャリア理論 キャリア・アンカー 第10回 キャリア理論 ライフ・キャリア・レインボー 第11回 自己理解を深める 第12回 キャリアデザイン・ワーク 第13回 労働者を取り巻く職場環境 第14回 コミュニケーション、対人関係力開発 第15回 この講座で学んだこと、キャリアについて考えたこと ディスカッション
履修上の注意	就職希望者およびキャリアデザインについて興味のある方を対象としています。
教科書	そのつどプリント等を配布する。性格検査などのために千円程度負担要。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	レポート・発表・受講姿勢を考慮しながら総合的に評価する。

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	集中	
科目コード	H1012	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-821-7195
	E-mail					ikeya@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。
授業の進め方	毎回、レジュメをプリントして配布し講義形式で説明します。テーマにより別途資料配布やプロジェクター映写により説明を補います。グループ討論を行う可能性があります(講義を通し1回程度)。
達成目標	(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 消費者問題概論(ガイダンス含む) 第2回 消費生活に必要な民法の知識 第3回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第4回 特定商取引法―被害の救済現場から― 第5回 消費者市民社会と消費者教育 第6回 情報化社会の中で消費者としてのリテラシーを高めるには? 第7回 心理学から見た消費者被害―わかっているのに騙される!?― 第8回 経済の仕組みと消費生活―経済学から考える「自立した消費者」― 第9回 もしもの時のトラブル解決術―裁判手続とその活用― 第10回 表示規制と消費者―景品表示法を中心に― 第11回 なぜ起こる?製品事故 第12回 複雑だけど大切なお金の話(1)税金 第13回 食と安全 第14回 特殊詐欺に遭わないために 第15回 複雑だけど大切なお金の話(2)保険 講義の順序や内容に変更がある場合があります。具体的には6月以降に掲示される講座内容詳細を参照するようにして下さい、
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文40%、レポート評価60%として総合的に評価します。

科目名	社会科学演習 ・ (専門ゼミ)前期	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1020	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業は各教員がその専門性を活かして開講する演習形式の授業である。 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示される。
授業の進め方	10名程度の少人数で双方向的に進める。
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習 ・ (専門ゼミ)後期	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業は各教員がその専門性を活かして開講する演習形式の授業である。 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示される。
授業の進め方	10名程度の少人数で双方向的に進める。
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（文章能力養成ゼミ）前期	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1030	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理性を持ちつつ問題に対する自己の見解を展開し、比較的長い文章を書く能力を育成する。これは社会において必要とされる文章作成能力を養成することになる。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行う。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (2) 基礎知識を基に問題に対する合理的な考察を行えるようになること (3) ある程度の読解力を前提とし、レポートなどの比較的長い文章を論理的に書けるようになること
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>演習は概ね次の3つの要素で構成される。 現代社会の基礎知識理解 レポート等の書き方講座 学生による文章作成と教員による添削・講評</p> <p>がある程度養成されていることを前提としつつ、更なる知識の深化を目指す。この演習では が基本となる。教員がテーマを提示し、或は学生自身がテーマを選択し、学生がそれに関して文章を作成し、教員がその添削、講評を行う。最終的には、ある程度の長さのレポートの作成を目指す。</p> <p>では句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説しつつ、論理的な文章を整理して作成できるよう指導する。</p> <p>この3つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。</p>
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（文章能力養成ゼミ）後期	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理性を持ちつつ問題に対する自己の見解を展開し、比較的長い文章を書く能力を育成する。これは社会において必要とされる文章作成能力を養成することになる。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行う。
達成目標	(1) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (2) 基礎知識を基に問題に対する合理的な考察を行えるようになること (3) ある程度の読解力を前提とし、レポートなどの比較的長い文章を論理的に書けるようになること
授業計画 (講義の具体的な内容)	演習は概ね次の3つの要素で構成される。 現代社会の基礎知識理解 レポート等の書き方講座 学生による文章作成と教員による添削・講評 がある程度養成されていることを前提としつつ、更なる知識の深化を目指す。この演習では が基本となる。教員がテーマを提示し、或は学生自身がテーマを選択し、学生がそれに関して文章を作成し、教員がその添削、講評を行う。最終的には、ある程度の長さのレポートの作成を目指す。 では句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説しつつ、論理的な文章を整理して作成できるよう指導する。 この3つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（編入ゼミ）前期	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>演習は概ね次の4つの要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。</p> <p>がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。</p> <p>では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。</p> <p>では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。</p> <p>この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。</p>
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。